

頤字名所和歌集

二和歌



類字名所和歌集第二

赤行

予代古道

山城

葛野郡



後撰雜上

新古今雜中

續古今春上

新續古今春上

同夏

同裏傷

さこの山とゆきさとしり 芥川乃あぐ乃ある邊もさたり

在原 行平

ありの山あぐれゆるあしうて又あわく秋望月此物

定家

子日せし予代此右道迄とりてる歌こふれ松りひるるん

太上天皇

春くれを予代乃右道ゆと分てされきり海ふあを搦らえ

家隆

ゆなせしあぐれ右道迄のつくしりつるよ歌れあそ

後小松院

おもひよえし秋思のさうれ山雪よ迄とふあぐれ乃あを

源満元

予尋濱

伊勢

此列有同名

後撰恋五

伊勢海北予尋乃濱ふひろふせ今を何てあひのまふ

教忠 朝臣

予松魚

遊江

大上郡

鎌古今賀

そふらうらうらの松原ありとく花も十のふもとを兼代 大蔵

鎌十載賀

つれえりつちこの松原と深見末高き花れたのり 前中納言 匡房

新後拾遺賀

あ代えらまひも久し百年と十海里ゆりま千この松原 後同 三司

千坂浦

道江

平治元年大宰守徳純有田佐并一と江國千坂

浦とよりの

千載賀

あ代乃取らんもろしとま里る花千坂の浦乃まさこや花 兼代 佐藤

千枝村

同

鎌古今神辨

柳家の千枝乃村よゆあしとく豊の明れと向しそす 正三位 兼衡

永仁六年大宰守徳純有田佐并道江國千枝村

藤亮儀伝

うとくあし千枝小咲花反花とのきらさ久し兼代の春 前中納言 俊光

竹生嶋

同

竹生嶋よりまうて傳げの町もみちれつけれ水よ

うつりてはるわし

拾遺抄

水う足に杖杖山色と綴しとそとさるも廣き錦とそみる 法橋 観教

竹生嶋といふ所より傳げのり山山の衆徒うれ

包するもて日暮の松乃神事ねとうらとくひり

由傳をきしてなりひはくあゆりり

新千載集

登りゆ沖乃て嶋乃松林あもむろしとまのうらとく 法下 定宗

筑摩川

信濃

小縣郡

爪雅春上

ろくろ川むり水とそむりり流ていくつれ花れ白雲 順徳院

彦門 滝

大和

為山城之由有一説然而伊勢家集前書大和国と且仍常国載之

彦門みまうてく彦乃りともてよめり

古今雜上

たちぬもぬ衣さし人もるまゆを何山崎の布あすすし 伊勢

まうもく乃彦まで

後拾遺雜四

く人もるまねく山の彦乃をそみ此のくゆそ何ちとさ 中羽言定推

や入の月彦門よさつとて彦のりともてうの

團井守家忠のまこれ彦乃ゆけりとりくみるま

ゆまれよめり

同

まのくくまゆと挽のたつく世のをさる滝の白糸 弁乳母

彦門ちまうてく仙室よりま彦けゆもれ

千載雜上

のくまうてく人れ者まを返さふ人のみぬやさる 藤田法師

同

きりぎりすの心とよめる

仙人此言の邊をよみてききしローキキウとていふ言周
情補

布引袴

袴様

布引の袴とよめる

古今雜
同

ちんらうを袴乃白玉ひろひきてそのまの後の後よそふ
行平
ゆきみる人よりきりー白玉乃る垂もなり神のこまきん
兼平

同

朱蕉院乃みりと布引袴袴らんとてあじは
の七日日むしーてのりきつ町
下界

まなけてゆく際袴布と織女は扱ひらやきふしりきりー
挿る
や治宗太政大臣の引袴とよまうりまらまら
取とよめる

古今雜上
同

白雲よりよきまのまは引袴もしくろよあつる
信
と川これやけのれれまなすむやうあつるぬりひきの袴
不人

新撰古今夏

同雜下

同

あゝ志忠のえりともそみるありぬり一濁て流れ布安の備
日よみのさ月やそあゝを白玉の乳まで流れぬの安れ流
澤幽りつく田の川に此河上り今よりみわれ布ひきの流

中臣
流八条
入道前
内八臣
五原
甚澤

古今夏

同秋下

同雜別

同恋一

同恋三

同恋五

同雜上

同

音羽

山河滝

山城

音羽山在之一比敷山内城本私
室より所有仍方可得意也

音羽山のさあしくれを郭をこすきつるふ今そなくなり

秋の流乃あきけり日よわ音羽山奉乃核もつろ付ふりり

音羽山本た町くるまで郭をさうり別をれししひあらるる

音羽山をとりきしけく相坂乃実此にけよ年をゆらけ

山科のをとよの山の音よのそ人の志久くわりのひやゆと

よそよ乃とさし油を音羽川流れとけりふみ訓初らん

ひき乃山けらとよの流をくそよあり

わらたさつ滝乃これうと年様をむにけしお思まぬり

わすしとれとらめれ

同少けとふもあゝぬ白雲を世流をそ流れ水やそきり

兼輔
在原
元方
淡人
不知
在江
采女の
とれん

忠峯

躬垣

後撰夏

の里とわらふ言母の山此邦をさしてあすもあす

淡人不知

同秋上

弘虫の初しをささふ杖はハととき山より吹くあみらる

同

同雜四

あまともく言羽の山此町鳥かたのくたうし唱祥けして

同

拾遺雜上

権中納言敦忠の西坂平此山庄此嶺此岩小書付る

後拾遺春上

言母川せま入て印す嶺此をよん此にたしきすうや

伊勢

金葉夏

りん坂此をよや春も越つん言母の山乃けりしすうや

橋傳暹

同秋

時鳥ともき乃山の力をまてあしきとこよひきく

橋成光

新古今秋上

とくま山に葉敷じあみらる此雲の小川より錦を平野く

俊成

同冬

秋風の四方小吹く此言母山河乃葉まりのくけりあふ

芳林好忠

同冬一

言母山りやりのみとれ白雪を明やとほくる鳥此は

高倉院

あまとの言よきつとよ川はらと神ふれをかしらん

淡人不知

新勅撰春下

浅くぬむらみゆ言母川をまいたるあ乃げのれはく神を

内侍周防

續後撰秋下

とくまや言母の橋つふくも人毎よとまきく

権中納言信忠

同冬一

言母川杖せく水乃あみ小あられも山此葉まるり

順徳院

愛百今春上

言羽河をよるもよきまをびりて人此れをたて

九条右大臣

同

言母川高けの波も志こもて定乃こはこは春よまみり

定家

同雜上

とくま川嶺の水に雪清てお日ふいけり水の

光琳峯寺人道前撰大臣

同

あまの言羽の里をらりたれと教乃人のま侍りか

前左大臣

同中

とくまともをよの里の神あむ此つらをの葉あもみ

太上天皇

續拾遺秋上

言母川せまへし水あけりて人此にみらる

西園寺入道前太政大臣

新後撰春上

りさ慈れ此を因乃言母山をよまらり力もそよき

太上天皇

あまの言よきつとよ川はらと神ふれをかしらん

清輔

同

此の山に霞の霞をよもやもや互らん

止三位
如家

同

とと山に霞の霞をよもやもや互らん

宗孝
親王

同

那言那の山にさつとさつとあけの山にさつと

俊成
為成

同恋一

お小たてる言那れ霞をよもやもや互らん

有家

同難上

秋深くる里のうしにまうらんとくもの中や秋をりらん

平任正
平指恭

同

お月ぬお小の言那れ霞をよもやもや互らん

除御製
後西園寺入道

同

ゆふさきは松吹風のそくを川あつとる山にさつと

前太政大臣
伏見院

同

秋風乃をととの里れ霞をよもやもや互らん

淡人
不知

同

けこき山秋よりわらわれ霞をよもやもや互らん

常盤井
入道前

同

けりたの言那れ霞をよもやもや互らん

前大僧
正道玄

同

又人もたの言那れ霞をよもやもや互らん

淡人
不知

同

さししり神のそくを言那れ霞をよもやもや互らん

推中納言
通俊

同

さへれりひまの言那れ霞をよもやもや互らん

院前
白太政大臣

同

春はくれおあれ霞をよもやもや互らん

院前
白太政大臣

同

おひあのを那の里れ霞をよもやもや互らん

院前
白太政大臣

同

お料乃をととの川乃あよもやもや互らん

院前
白太政大臣

同

おひあのを那の里れ霞をよもやもや互らん

院前
白太政大臣

新撰古今春下

おひあのを那の里れ霞をよもやもや互らん

院前
白太政大臣

同秋上

吹しりよ身しりし山此言母山安取越しや杖もさるし

二平法 親干兼 道

同冬

言母山此杖もかしぬくまのこけこも者ありまらる

式部 那首親 王家少 侍 児俊豊

同

言母川のひりさうを岩は杖を并み物を思きりし

寂念 法師

小湊

山城

し訓郡

古今雜上

大りや小湊此山もきふしうを杖代乃事もちひおらめ

葉平 朝臣

後撰

大原や小湊の山のこ松魚もやまふれ杖代の法みん

貫之

後拾遺雜上

世よとよむ豊乃山後とよそり小湊此山の山事とやに

伊勢 大輔

新古今

小湊山持もかすすりつとしあや皇のみ物さるるらん

少将 井尼

同雜上

個まはしり山の山此小松魚今より杖代の法とさるらん

大貳 三山

同

かたよもびりてかけおまると都もとり山の山下此の山

石原 伊家

新勅撰

小湊山此乃色とまふれす小松し久をうし杖代も

藤田

後撰撰春上

大原や小湊のこ松もとよひえのこ年此法と下し南

中納言 朝忠

後古今冬

春窓立小松しをかとり山こ松り象のうとみりなる

後成

同神祇

小湊山此杖もかす杖代も少りてすあつぬり

中勢

後拾遺

大魚や小湊の松うとる杖代のつ川もうらぬたり一盛つき

藤原 信実

新後撰神祇

千あ松とりの山の春に生る松り杖代乃しとそとらえ

權大納言 長家

後十載春

としが山や杖代をさるんとう吹杖も若とそとく

山階入 道左大 戸 前左兵 兼督教 正三位 為実

同神祇

大魚や小湊乃とる杖代も少りてすあつぬり

二平 秀房

同 卷三

同 再上

優後拾遺夏

同 神祇

川雅神祇

新十載秋下

新撰古今神祇

小 截

山 野 里 峯

山 城

香 野 郡

又よびくいなぬらう小瀬山まつくを風の便あもふ

入道前
本政大

まじり林乃る浦と小瀬山康とありひやるまのすしむ

中臣
師宗

大いーや小瀬山此子親裁ー神代のもこりさうん

左大臣

後れりししををさくを小瀬山神代此松よふりう白雪

從三位
氏久

少りよきう神代をさし小瀬山此色緑乃をゆの松はく

為氏

千原振神代もさうのぬ紅小せー神代のみい繁葉さふり

為定

ちうやう小いりの山此茂此松茂も神代の同じ様し

後八条
入道
内大臣

なり月つこりれ日大井までよめる

古今秋下

同物名女即化 又拾遺雜秋

同 冬

同 雜三

拾遺夏

同

同 秋

同 雜秋

後拾遺秋上

つくとんをくーれ山乃勢云は海原うおーとををぬそ嶋

海原
師尹

春うりく海白書をさくー山奈あそを乃りうるまひ

淡人
不知

大井川うりる母れー里大よ小愈の山く名れさなり

兼平

あやーくも康れまーみぬおさくーれ山小裁やふぬ

平兼盛

あまをさあひく成るん小愈山扶まつ程れ名ふしう

淡人
不知
能宣

あまをさあひく程みんきぬせ小茂の山れふまらり

大中臣
能宣

とくー山奈れあまをさあひ分ったむのそゆさうさうん

自信公

小茂山まもさしぬ夕寄小書まうとをを取席をなくひん

江侍從

雄念れ家う燈飾りり此ぬれ少り飾りり日暮り

人の飾りりも款冬に枝取れてをさくゆりさうし

さきてぬりうさうて又乃日山吹のひ雪さうさうし

同律五

全葉秋

同冬

千載秋上

新古今秋上

同

同秋下

同冬

同

新勅葉秋上

同

同

續後葉秋上

同

同秋下

同

同

續古今秋下

同

同

のひとこをゆるきるやみ伊ひけりけりきり

七重八重を咲かぬ吹れぬれあふふなまうのや

とこり山の原れ吹くくさき乃棟のみらりみりり

神立月しく行くまふ小菟山下てるりりおあまうりり

おふろおれえとや人乃とふらん小菟れ山を照とあま

とくら山やそのお人の花落りのよとゆらけれゆふくれ

何くれのこよひれ月の曇ふ小菟の山もふをやりふ

鳴瀬れ音を乃とうきく小菟山登立に形く町しげまは

雄菟山麓の里よま業らまは掃くも行く月をみくられ

つれとけさ小菟乃山乃法とてきつと人れ急くなる

小菟山麓とあひり夕暮よ立りうさめくあまうりの

菟香し小菟の山の道はれ愛世旅ちのとけりぬ目うる

限の道をもつてえ笑れつとあひり町あれ小菟山乃れ

お町あ深くくくく雄念山きふや子入の足跡のあま

妻くこれ席を鳴りるくく山香乃杖はきくふくくし

小菟山くあく敷くしに杖風の力よきしとや康の鳴らん

小菟山すき野れまの夕暮り言うみし林あしるる

小菟山町あれえ乃おまくこれふを腐さむ方れあま

は乃あく浪動てをくく山麓のあまやひてれらすし

夕ゆれハ小菟乃山小鳴鹿れこよひもる守いねよけしと

とくく山林やなりのくなく康をの川せりぬ涙とそそ

明ぬともきうりやもるの川岸のけさと小菟乃山の兼や

中務口

藤原親

源師賢

道兼

道兼

源入

不知

大江

千里

清原深

善父

西行

法師

道命

法師

西行

法師

西行

法師

西行

法師

西行

法師

西行

法師

西行

法師

西行

凡雅秋中

小蔵山雲れさり八相よりぬきりく海よりとて

俊成

同雅中

そのもきん物せり小蔵山朝の松うされて又

定家

新十載秋下

夕雨れを芳をなれ小蔵山やまのとうけに席を鳴り

鎌倉右大臣

同

とくらしとてはふまきの秋は後より町をて流るるの月

前大納言

同

夕月秋小蔵山にぬきぬのこりて山に下てる秋の雲を

後醍醐天皇

同雅上

月乃入迄き小蔵山けよひりりやけさうと麻の冬

左衛門尉

新拾遺秋下

小蔵山杖ハこりひとらとてりれ妻やふきふする月け

法印弟

同

小蔵山木この葉れあや香れあくのちるをるり

信輔

同雅上

小蔵山葉吹るるすこりしお又あうりくさうのあ

目照法師

同

今ハくしよそあそこの小蔵山春の葉れ秋のきり

前茶談実各

新後拾遺春

煙うさにとり雄飛れるのちみるゆも霞むは秋の月

權中納言

同

月もたふさくれのそく山杖まの種とびにけりひも

權僧正良徳

同冬

小蔵山すれ小蔵神かしてさしくりく秋乃のさき

前大納言

同雅上

大井川一紅ゆりく白ふりれ小倉の山れ葉ちえらし

孔季

同

小蔵山旅をなれと種されは月れりるの山小蔵れ

宗仲

同中

町あけを霞りさゆとてくく小蔵も秋を涼きえれ

從二位

とく山あをきるとさてこれの建てる町は松はうふ

從二位

小野 山 藤原 貴 山城 愛宕郡

小野くさふ小倉ゆゆり町を葉とみくよゆる

古今秋下

秋の山葉をぬれとま向まは後れり人そ揺りする

貫之

同恋一

浅草生ハを葉息志はふくも人ちるらめや人り

不知

後集恋一

あさらゆれ小倉の葉息れと余とておとりの人の志

源の

後撰集

敦忠を名めちりて又の年のの御臣の小野丹の歌
みんとてえれくれうりて物くこまけりきる
けつてうりてえりきる

清正

拾遺雜歌

らうつあ一方やうの白雲れまらまるとみり悠こ
こ山ふと物な夕ひんらうけつてきりてふれとの炭焼

好忠

同書傷

る雅洲臣善門らうて経信音し侍て又の日記くれ
と後たに後侍けりつてうり小野にまうりて侍
けりみえれけりうりてうりて

後拾遺

新ある事く暇日に盡けりてりてとけきまにくこさん

春宮大
夫道經

全葉夏

初雪も初雪あれり小野山れす本れ炭竈たきまらりし

相模
公実

同

初雪も初雪あれり小野山れす本れ炭竈たきまらりし

経信

炭竈よ立煙りへ小野山を雲あのかもとこゆらるるなり

皇后宮
権大夫
師時

千載春下

とくのひひろ山乃のふのらとの夜為まう町

とこのあゆり氷室れ山れとそまら清浦けりきりて

源仲正

同冬

す紫州小野のう道はさしてゆりくも雪れ成ふまう町

在原
馬季

新古今集

初雪も初雪あれり小野山れす本れ炭竈たきまらりし

俊成女

新勅撰雜歌

うりてうりてうりてうりてうりてうりてうりてうりて

俊成

新後撰秋上

み輝のるさやうりも白雲よ風れ吹くそけりて

家隆

同中

悲ひ依りて藤原とくあにのさるてうりて

同

亭子院敏行の臣れ小野れ風に掃れりし

りてうりてうりてうりてうりて

續古今春上

思ひ出くこにこさりきし梅花泣ふひれつと極き海し

伊勢

同秋上

夕阿まはあ吹向とを杖ぬよ来まうこふをのくし代魚

衣笠前内大臣

同下

思ひし子妻やこふりし少と廉代涙もあはれ小野の茶魚

左大臣

同冬

小野山や晩炭竈ふらうと埋む尻木とせうし流りる年くれ

俊成

同旅

あまのけさ小野乃茶魚つふ又のたのまき路の袖ゆすすむ

藤壁門院少将

續治遺法上

向の言もつゆくはと杖をさそくは浅草生乃せは藤魚

從二位行能

同

虫の若も我よりしゆ乃杖ぬにあふむゆら小野の藤り

俊成女

同

又こまな芳たのせうしる時て杖ぬきとれくし一の原

藤壁門院少将

同旅

はひ人れ言うと夜神あまをゆらおあふ小野乃志れり

權律師定為

新多撰夏

為けり小野れ一乃葱志のひ縁ものまア種ゆふ子親也

花山院内大臣

同

向をりふ小野乃藤魚事こつてあかめくさくと廉乃し志

法眼慶親

同冬

廉代をさきくしへても短人のびあうけく小野の山宮

西行法師

同尺教

海岩に極きれ道もたさしてゆくふ成ぬ小野乃里人

祐盛法師

續藏卷一

友夏のしと志のさせよ海も入ても程来たのびとあなる

權少僧都道順

同田

川方ふ又杖風のふえりしひさ袖ふしとれく茶京

權守因助

續後拾遺法下

浅らゆれ小野乃茶魚りく虫れ涙うしあはれ林のゆふあ

從三位為理

同冬

とくちやふ小野の炭竈をれつしと魚ひるを言縁せた

前大納言性雄

同卷一

馬葛もふとの藤魚下にのし人を志れさうしとるさり

淡人不知

同

炭竈れ煙に春をよこめてもそのつすめら小野れ山り

為家平貞時

同

小野山をやく炭竈の下るまき煙の上よつりるしと

安赤門院四條

新十載秋上

うさくらふ乃小野のしれりくえ付て居おきと都なくる早

前中納言推挙

同秋下

蚕いよりのりりりさちあれと都の茶息はうくれゆれ

從二位孔氏

同冬

ゆゆの日をぬも電代きまらるるめあぬお乃をた藤原

鴨弘夏

同

ゆゆ雪お小野れ山里はりゆほほやけさの志はくひりら

堀門院中宮上

同春四

浅草生乃との茶魚あまうたうみみうれうああん

入道二直助

同雜上

煙たつと野れ炭竈扱われや款きつとて下みとあらん

後成

新十載秋上

とさ余れ房を乱てあさう少れと野れ志乃原はゆうぬく

惟宗光吉

同冬

今えとて浅草のれりおれ上ふりりけきと野れ藤原

前大納言忠良

同

の速をけろ小野の藤原の終てのれ里日教乃ゆりる雪や

承親清女

同尺数

云のまをらうさすのれを井と少き得る小野の山り世

前大管正栄海

同

れとよ所は乃ゆをましくしてを込ふすもふ小野の右直

權僧正賢伊

新十載拾遺秋上

雪をたらしつみもてぬ炭竈は煙あきく小野れ山り世

前中納言忠季

同冬

のうとよさすあらとくうひひまされ野分は堪は小野茶原

家隆

同

らと竈れ煙た束とうらひひき雪吹おらすと乃く山りを

宅院左大

同雜表

つゆとる煙をたてしゆり鳥不汎まさしゆり小野の炭竈

權從三位為子

同雜

は遊さ小野れ藤原とくあ乃のれとてよそよやふ雲り乃

法印宗信

新十古今冬

ぬつれ人あうらうやゆくの孫孫をりさ小野の志の魚

淡人不知

同雜上

炭竈れ煙と里乃るよたてくよそあも志はま小野れ山り

淡人伊定

同

浅草れ小野の茶原ゆうよさ人らうらうや杖たうぬとも

淡人不知

又ゆりも並うふれをかしつりて月あそひひくをた茶原

行觀法師

小倉嶺

大和

新古今春上

白雲れ春よりとさゆくと岡山小倉の春よりさ白ふらし

定家

小墾

一説大和

土馬

古今雜下

とこしのまのゐるまはしん経のへを愛乃うまひ

土馬

小野

古江

伊勢

金葉別雜

伊勢乃海の小野の石江は枯果て都の方をぬれしを思

兼詩

鏡後撰卷二

伊勢乃海の小野の濠は流江はけりまてみん人の口を

兼人

懷古今秋上

濠すす夕波常伊勢乃海の小野の石江は杖のまろし

兼王

新後撰卷二

つせは海れをば濠のをれつしをさる瀬は波乃さりぬ

兼臣

新十載身

げのれ若乃末末もみしと版ふりりとの濠乃みぬぬれ

兼原

同冬

伊勢乃海乃との濠乃入汐よりりれ江をくなく千島りま

兼原

小堀井

同

豊受太神言てとまの日はめり

同

小堀井をきふ若水よりと初て流り人自向れ春をきり

兼會

世とて汲せつき久思れぬりりしす小堀井水

兼會

畠邊

駿河

新拾遺集

なとりきほこれけとと分て思ふりりしつれなる

兼印

小笠原

甲斐

詞花春

もいせりままのこころし小笠原ゆりりきりぬれり

兼都

小野

常陸

新十載雜下

しつちりりしとれぬれはあまのりしをゆれしとあそび

兼言

畠田

近江

鏡後拾遺卷上

畠田も春やまのりりしとれぬれはあまのりしをゆれしとあそび

兼慶

音山

同

新拾遺秋上

ゆゑにのや姨捨山乃古奈うらわしと分ての月日親

家隆

同秋下

又科や姨捨山は務録してこゝの月をひりか

能目

同雜一

あふさぬりの心をもうじへふ月やさういへ姨捨山

西行

後拾遺秋中

秋毎おひくあつこき月うとをわけても急や姨捨山

為氏

後古今集

こゝ入つ連とてとて山は雲とて月満しふと流りたる

前大僧
正覺

同雜下

あやしくもなぐらうとまじく姨捨山乃月もこれ

小町

新後撰夏

み秋されもむやひくあふぬとをて山乃月もなぐ夜を

宜秋門
深州後

後千載夏

あやまきやあそいとくなくさふぬとを捨山乃短秋の月

大江
貞重

同秋下

月々連をまよこひりさしおやとをて山はみ禰の杖風

鎌倉右
大臣

後拾遺秋下

あつしおや姨捨山のひりさうわ杖は心を月う急ら

祝部
成茂

同雜別 又新後拾遺別

あつりおとさけを月えはくとい捨山そこひしうあつき

夏之

新拾遺秋上

杖はよの岐しこの月々連や姨捨て山そわりひやう

源信明

新後拾遺秋上

さうおや姨捨山は月をこいひやれたる涙あり

三条入
直左大

新讀古今秋上

又科や姨捨山の奈まてもわりひやう秋の月ひ

後二
羊院
源有宗

拾遺物名

小川橋

陰奥

勅撰名不抄并 康瓠草當
因云八雲は抄前さ如何

菰葉よりまをくれうとほたらの小川の橋をうあれ

業平

緒絶橋

同

後拾遺秋三

後撰集春中

陰奥杖の縁れ橋やさうらんふらぐゆますとひまうとらん

左京大
夫道雅

後千載秋二

白玉乃花さしの橋は名もつしくもてあれ神の候

定家

同四

あふおとさけの縁れ橋のけりねまをてあれうひりさうあ

式部
父親
王

新十載卷五

琴此杯もよひきこもて此奥とて結ばれ橋中も終りて

定家

同

きつはれろのゑさしをうりて終れ橋と成る

為氏

同

あふをまやうくとさし乃橋柱うさふや五杯果そ懸りて

民部口
資直

新古今卷四

あふを乃とさしれ橋や我中もあうりての奥りうりて

長秀

同

まうりての奥りもあうりてさし乃橋うりてけし三行

前大僧
正實

同五

人むとさし乃橋うりて成りて果ありて杖の果もひら

定家

雄鴻

碁碁

陰奥

後拾遺卷四

松鴻や雄鴻の磯よあさるせり登れ神もあふぬれり

源重之

千載恋四

あふもあふと鴻の磯の神たあふぬれりあそぬれり

殿内
院大捕

新古今秋上

しろうりてさし乃橋れ杖の月やとれともぬまぬれり

之内

同

松此奥の月や雄鴻れあさるの果の方うりて仲のつりあは

家隆

同旅

あふりて雄鴻れあさるれあふりてさし乃橋もあふぬれり

有家

同

五人り又もさし乃橋やとさし乃橋の杖やあふぬれり

俊成

新勅撰卷上

松の根乃と鴻の磯れあさるれ杖の杖もあふぬれり

式子内
親王

後拾遺卷二

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

雨茶議
親隆

同五

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

鎌倉右
大臣

後拾遺卷

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

西園寺
入道前
大政

同雅中

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

俊成

新後撰秋下

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

有家

同冬

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

今上
傍製

同卷二

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

俊成

あふりてさし乃橋の杖の杖もあふぬれり

蓬美
門院

玉葉冬

蘇十載春上

同秋下

同

同卷二

風推雜中

新十載卷一

新拾遺卷三

新續古今後

同雜中

我女あくせく入楹のひよ月侍てと鳴り残に子島あし鳴

のうりり春は芝小松鳴や雄鳴れのみ入神やあし鳴

波叩く我雄鳴乃答や杖をてあはくもらうを月たむ心懸

松鳴やうまれま乃すて夜也いもつれとあはく神入れ

松一海やと鳴の誓ふあみぬまてそ神乃又やういれと

あひうふと鳴の松れ未れるよりをふけあはく望れ釣舟

う兒おれとと鳴乃あすの夕煙たてるとすれを浦風う吹

世んてもあ海と鳴れ望人そりさ乃れきあそ神やういれ

心ういれとういれ残の握抱じしてあけ八重凡さうり波

つれなくと今も何と鳴鳴やうまぬむれ波波重けと

小黒碕

陰真

小黒碕うらのこ鳴れ人さう入船乃つとみりそとつとまうを

小黒碕うらのこ鳴おりさうとつとたつう鳴成はまうりも

雄琴里

脩中

松風のここの甲ふあふあそ治南まう代乃あそすゆの

音急

紀伊

東條のあそふあうんああてくつ川こまうんあそまはあ

あり乃川とそ作井あひりれサううと相あふ人乃涙を

悠あう海いっさああんと一ああひあへく

志あ一をさあうひうん也非もあうしああひあ

と伊ひああう程ううあり乃川れあうりう

うら白き物のはああうあめう

勝命法師

徳宗前

太政官

国助

前参議

忠定

正三位

知家

家隆

前中納言有光

前大僧正有光

有光

朝醒人

道前大臣

政大臣

有光

前大僧正有光

有光

有光

有光

有光

有光

有光

後拾遺雜四

山崎守首も白く成よりり我ら包むる時やまゆらん

増基法師

金葉夏

お花を若かり川の彼岸とて縁なくもれりてこふまゝなり

源盛清

詞花恋上

恋はてひらりぬせやおねるまうら流れ候やるふしけ

中納言俊忠

新古今雜中

いづくもれりやうし人乃回こはる世川小燈あること

大僧正行光

後古今恋一

るらりの流れる上人とてちのひよふけ神やこせり

為家

後拾遺夏

ふのこして岩ぬきくまらゆるを言せ川乃みりぬれり

五原忠資

同恋二

いづくもれり神乃ちうこそえとみん興り人こそ言その流

上原行院

新千載恋一

へこ連ぬいれうら乃水よふせくやなきたの言りけ

從三位為信

新拾遺雜中

初人まうぬえうまを言りけ流るを流りのひけ也

能因法師

徳控山

紀伊

八雲寺地并藤塩ま
新撰等當田云々

後古今雜下

年つりらとすその山れ核の葉も久しく成を毒せにらる

抄本八九

白玉れとすてれ山の月うけみかんでみる核のト

在原基任

同冬

父こまはを控り山れ毒れ上小核のえちのまつりる白雪

源百長

新拾遺雜上

ぬえと免ぬと控り山れ毒れ上り礼形、玉を電やり

前巻詩教有

新設兼恋六

忘水

大和

山辺郡

備前石同各

そとー一布毎野此海此忘水所今少くそりひからん

寂超

詞花恋下

忘水

括洋

住吉郡

ほりー此海此小野乃忘水としくなしてあふりもろれ

寂原

後撰撰夏

み月ぬえ海津とのくものこして涼くるるわりのみよ

前大納言隆房

續千載神祇

あゝぬゝ小あさ海波乃く忘水乃れ果てもあはれをゆき

鎌守経国

輪田清碕

同

八都郡

王業雅二

夕附日乃これ見えれと漕舟のく帆小川やむあめの浦也

大政大臣

忘井

伊勢

天仁元海新定群乃此町忘井とり小ふりてよある

千載菴

つれゆり物れ方れきくまにりさ結ひみんわすれ井れこり

各宮甲斐

若松息

伊勢

三重郡比列有同名

天平十二年十月伊勢女ふとゆき一はきうと乳

新古今旅

妹よこひりり乃松原とわこども熾むの浮よふ山乃後乳

續古今雜上

伴瑞鴻やわりの乃松原とわこども熾むの浮よふ山乃後乳

爪雅春上

伴瑞鴻や熾干乃のわりの乃松原とわこども熾むの浮よふ山乃後乳

新古今賀

雪ふれい為の松原とわこども熾むの浮よふ山乃後乳

度會

同

度會部

新古今賀

忠代も久しう乃松原とわこども熾むの浮よふ山乃後乳

匡房

我立拙

道江

世賀郡

十載雜中

お月おなぐうまむの良おれわふり我立拙小墨深江神

法印 慈田

新古今尺歌

何樽多羅三願三雲提乃佛たち我立拙小真夜乃く世賀人

雲の山まのの月いめくりまて我立拙乃ぬりともそま

續拾遺雜秋

又よまらん山里乃りと思ひまやわりの拙の奴のわ

定修 法師

新拾遺尺歌

思ひまや我立拙乃いあまて務り乃波波海をアしとを

前大僧 止公什

同雜上

米ももりの立拙に喜らめて山のりひりたをこそみめ

前大僧 止公什

王業秋下

世賀なるわりの立拙の香ふれてしらまむむ杖乃我立拙

前大僧 正源惠

續十載雜中

むんし又我立拙なるとをてゆみぬ山うひひくらん

權律師 淨弁

爪雅雜中

この奉二れをなるとをて我立うまのなまうたりん

前大僧 正慈順

新十載雜上

かも我立拙のりさ子世よは海ふつと神のくそみる

入道二 品親王

同中

思ふや我立拙乃返りきてむらひまむらなるとをて

二品親 干子胤

同賀

初来し我立うまれふさるをせの坂もえうらむつさ

權僧正 良聖

新拾遺雜上

いふせん我立うまのまきの門こりむむれ志じりまむと

法印 増進

若松杜

道江

院北頃町久壽二年大嘗會總紀方因信道江嗣五松

乃よりきよなり

すんりきの末りりゆんさるじよふるくそ殿松のきり

五浦

紀伊

古今序又獲古
今雜中

五浦よ極満くれえのこを皮のーをさうしてたの唱はれ

徳拾遺雜五

おのほよせーと人いふたまるらん浦を若松浦とい

全業雜上

人けをよび計を互そひてあうもぬあのうー思とそす

詞花雜上

若松や久米の佐良山と思へ共若乃浦とそ云へうとされ

同

五の浦よまうて三ぬ風ゆりの波乃うりうと思ふ殿し

千載雜上

ゆやーをぬとたうやうくらんたもうりきぬ若松浦りぬ

もこが葉ひくせほまーおんぬの殿よー見とくわのれ浦波

同雜上

如方の浦お氣はーおんぬも波ふくまも月よみうり

同

若乃浦お月れせーりのちをまうおんぬ唱はれ詳う想し

同中

若乃浦波はれまうーふるうひまは後よまうの整れ釣舟

同下

若乃浦や沖の瀬のひよーのひせうの我れ若松をぬこよ

新勅撰上

和なれ浦芦をれまう唱はれおんぬ月れれそさひー

同雜二

乃乃浦よまうれぬ望れ康福草をさひ計お括や果うん

同

もこが葉ひくせほまーおんぬの我れ若松をぬこよ

同

契とまうー契の上おまうしわのの浦踏れあまの康福草

同

若乃浦よ極まき月の整をいひのまお殿をれ波ううみ

徳拾遺雜上

乃の浦や極むのめこおんぬす島若れ波をみるもめし

赤人

重敏

法師

前中納言

言甲斐

大納言

師頼

贈左大臣

祝部

成作

源家長

民部

藤山

我蓮

家隆

西製

法眼

宗山

行念

法師

西行

前大臣

後後撰雜中

あぢやう方れもくすをうま並て望のちまのほやひ連ん
正三位 出家

あけ浦の浦へ一辺のもまがまのくおなうて又や栲まん
五原 為淵

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
中原 師季

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
平茲特

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
後京極 撰政前

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
太政官 隆信

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
平時直

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
光原 秀茂

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
天上 天皇

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
正三位 醍醐朝

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
院道 前太政官

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
大空 志朝

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
権律師 定考

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
有洪 法師

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
前美白 大政大

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
後成

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

あけ浦の浦へつうてひうまのまのまぬわの浦内
為家

同 同

如方の浦乃はよらぬむらりそよつさむ乃芝とそんる 為定

天浦やそ人ふれりもつらしみのき玉乃邊のもくつを 後伏見

ふとほしめんと看しりし草又とくらひかワの浦波 示證

ワの浦はたもふ波の名汁とそそうさ此りつひるる死 徒三位

ふとけりてさひもけあの浦に年あるむれ波のうさ 為成

又許後合書雜下
四海とつひさむをの思ひかおあうまにぬ連ワの浦波 法皇

ワの方みワの浦風吹しむらもくつも波れ使とそま 院

我口なくさむむれふ乃茶と控うりのわらワのれう 同

あゆの浦やそ人なとふるるそまぬ魚れとよ余とわ 大納言

つふさしむ乃浦の思と流り力と居てまう浅さむを 法下

ぬなうぬ我力りむお越てりりむとけしむのう 惟宗

あやれ浦おあふり乃道とのまとるハ邊おとまお 雅

あゆの浦や絶つあ神一淡子駒分さうそけう 行系

ワのれ浦ハた控さふ舟の縁舟繩川人あるむもぬら 性

ワのれ浦やるの波ハ絶りせむとうれ舟れなと 法印

あゆの浦にらゆ年なととのそくさう所代そぬさむ 止三位

あゆの浦お二番玉とみのかくしあふりけさ代れ 法下

ワの浦に玉控さふとこのりむとさうら 後西園

人なとふるをやとるし和言の浦お控絶とふ友 寺入道

人なとふるをよとめて候し島つとそりこつ 前大臣

あゆの浦よむととめて候し島跡とそりこつ 二品法

あゆの浦にらゆ年なととのそくさう所代そぬ 信史

あゆの浦にらゆ年なととのそくさう所代そぬ 為世

同中

同

わのれ浦に年あるたののそ井をましのけけり道う賢を
按察使
実隆

同

たのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
五原
為弘

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
前中納言
言親賢

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
三善
馬下

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
小槻
匡孝

同別

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
五原
高藤

同難上

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
左大臣

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
源善持

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
一品法
親王
親王

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
不
知

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
同

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
鴨長
明

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
不
知

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
順徳院

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
從二位
家隆

同難下

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
馬重

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
二条院
謙岐

同貴

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
家隆

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
前参議
行忠

同冬

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
後八条
入道前
内大臣

同貴

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
前大納
言公崇

同

わのれ浦よしのと果けり控舟も今人よこれ世よひりれつ
民部
卿

同

同雜二

人三車ぬとたうしこみ寄十島経ぬ迄とも世よ浦らふ也 原經有

同

五ノ浦やむふれ松よ海寄乃つと乃る年も今うりひり凡 前大納言為定

同雜中

これ人のいもた祿もろく福を今もひり一のワ、乃浦松 淡人不知

同

もろくもみしてたすろく志業やう乃ふ計のわの浦松 從三位雅家

同

五ノ浦の浦はらうとんせうととくのそと三よん 左大臣

同

五海里ふてますりやうはらうとみ十るれわのワの浦松 前大納言理世

同

松の浦やむのつたこ乃迄とよふを我しよは松たとも 大藏口隆博

同

秋にそく松の浦は代こりり一迄とみるゆも愚びんか 三善為種

同

ゆけてよふ及もそまう代こ乃迄みぬもうけ 推中納言推世

同

も井とまうしる外松の浦は声をれたつ乃言ゆもたてぬと 内阿法師

同

つらの浦やむ井た友にあらうもれて若海流乃た川も 無心親王

同

松浦は松みけてやうふとらんも松まれもろく 從三位行文

同

五ノ浦よむハ七十九れむれぬ又度おういふとそ 前中納言推孝

同

口の浦やむと使乃ろえゆもみうおつてのあまの釣舟 松原秀茂

同雜下

とくれわと道まともを松浦よ更なり、鶴やふそ 法印勝運

同

五ノ浦の奥よゆし藤松ま二川まんせくととく 後京極松竹前太政大臣

同神祇

松守れ口の乃浦はらう代にのく松やむ 宗助

新渡古今神祇

松浦にまひや果んこくま松林乃らうへれる 攝大僧都榮孝

若松原

紀伊

各条 海ア兩部可夫之 伊勢同名有之

高橋口の乃松通ありふりりつくと包わらん 鎌倉右大臣

志水

未勘

いさくと野中よふゆ水後浦く 大和官首

鎌倉遺事三

笠華恋下

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

橋俊宗女

新古今冬

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

康資王母

續古今秋上

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

是則

同

續拾遺卷二

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

平行氏

玉葉夏

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

五原

同

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

山重法師

同

凡雅恋五

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

大納言

新十載恋五

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

平貞照

新後拾遺夏

同

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

橋兼夏

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

後西園寺人道前太政大臣

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

有家

同

あつちやあつちやふとむい水つとせとておのひのりえ

平重時

同卷四

新讀古今卷五

同 同

水原のそとに坂井の三木くまゆし人のつれとよみと
あつりる末葉のくま乃三木くまゆしを縁満のこゝにて
秋遊るや今ハツしまの巨き法以し神乃のあつりるを
中よまのつれに三木くまゆしとよみ人おろす

推注
伊勢大捕
法印守備
今出河前右大臣

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

加茂

杜川川原 神山城

愛宕郡

古今卷一

同大友所伝

後撰夏

同雜二

同

拾遺雜恋

後拾遺由三

同四

同五

金葉集

千も揺が波れ社のまたまきひし日も恙とけぬ日影
千も揺りもの社乃ひめこ松系代かにも又そりし
ゆも川れ水うすすつて照月とゆきてみんら夏後す
らりもゆすれ川原よ物前てきりあがる教をよふん
あつてのこちむつふ物り千も揺りもの社乃系代とみん
千もやゆふまきれ川色れ波をよめ三折く町れなき
ぬぬのりま川きよま島鳴きふももろなくきんとす
このくしのもれ社れまたまき世をのころれを
ゆゆのりもれ川波へるあおちやうかき結的しけり
夏後川をゆりりたても後所

淡人不知

敏行

淡人不知

敦基朝臣

三条右大臣

兵部

圓教法師

安法法師

後子内親王

信淵

りもりして

作忠類

同 ちりやゆり祈りて是ふくつり 乞とそトれ社とを乞 和泉式部

同 雑上

十早振のそ乃社の祈もたけ志口すれを口れも志れ 大谷院中侍

同 雑上

所後正一りの川のゆえに早くケ一きよ神をゆれきや 馬内侍

同 神祇

さり世と頼む心も祈きひてス一く成ぬゆえのそり 式子内親王

後社社の祈合してへてそくのそ見ゆあれ時

速懐乃方よりよめり

同

志を祈る祈りひとをせおいて婦人且あつちらの祈る人祈 賀茂申保

新古今廿四

祐よるめふひなうそはしつれあともをやゆをれホりふ 淡人不知

新勅撰夏

千早あつちもの卯月よ歳よるつさ打ひきてあまふん 同

後社條時祭

つらぬはしのあそむるうとつれなうりあれとくらん

物心ひととを侍けり

同

山の山もてすなるむのうのひとれ長くう我を祈あつふる 夏之

後社撰神祇

まへり町の川の波もそよてもケ一やみゆきのまじ成は 上東院

後古今神祇

尋ねさのまは海原あつちとやきふれ祭乃始りうらん 美白前左大臣

同

くしうりのりの社のゆふうつと上とちまは下も乳連ね 右原光俊

同

守れり後社社乃を津津志ゆへ小う跡もころらぬ 前内大臣基

後拾遺雜春

所後すう麻のゆあして波もそ涼しく成ぬゆも乃川の波 入道内大臣

玉葉神祇

まくだひよ頼む心も祈きひてス一く成ぬゆえのそり 定家

同

つらぬはしの川の波もそよてもケ一やみゆきのまじ成は 乳捕

十月廿にりもよあものそ時しこみよ見侍けり

同

こつろふよふる初雪を白ゆれゆふしつとふひまろふ

増基

同

そつとふいのりし末をえれとをえつりよつとの川波

俊成

徳十載神祇

流ろつろくひくれいしつろれをみつりもれまのり

祐十内
其王家
紀伊
度成

續後拾遺夏

下ふ振りもれ社元ふひなりさすきふあも殿まきろふ

後一条
八葉前
美白左
大台

風推身

と後暮まき二葉よりり初て世うむりるもれまのり

大台

同

山後下ろゆく初れ波をあまて杖周としりもの川水

圓光院
入道前
美白大
政大臣
前左兵
衛督馬

同冬

山りみの神れ月うけさねてお吹りるすふも乃川り波

成
成

同雜上

互ふりひり一れ春乃をさきまきつとを分りつりもれ

成
成

同神祇

もつため三團後まきまき川の流ふすあつりものまのり

鳴若心

新千載夏

まごまき一り波のあつりつりつりつりつりつりつりつり

伏見院

同神祇

今と程たのさうつりつりつりつりつりつりつりつりつり

為定

新治遺事

三一一あつりもの川波をぬまきまきつりつりつりつり

藤原
雅弘

同神祇

大ぬりや麻ハゆふしつりつりつりつりつりつりつりつり

進子内
親王

新續古今要

千も振りもれまのりつりつりつりつりつりつりつりつり

賀茂
經久

同冬二

千も振りもれまのりつりつりつりつりつりつりつりつり

定家

同雜中

三七一とせり山後まきまきつりつりつりつりつりつり

後八条
入道前
内大臣
上三位
秀經

同神祇

うさ世よりをれえつりつりつりつりつりつりつりつり

藤原
秀經

同神祇

白波れつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

藤原
秀鎮

同神祇

吾我いのりしるをりつりつりつりつりつりつりつり

俊成

同

千も振りもれまのりつりつりつりつりつりつりつり

信実

同

去をさりりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

權中納
言雅世

同

去をさりりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

賀茂
秀又

神山

山城

聖若郡

後拾遺

坂本を卯月よびぬ神山の山、のち柏りつとりかし

孝祐 野史

同

さうりやふそれ神山乃勢あるけりけり此勢はかき

皇古宮 兼作

金葉夏

神山のふもとにありや即能きなりとのゆひに陸は成らん

中納言 実行

千載夏

神山乃業をかひひるひき別ても年うをりけり

式子内 親王

同秋上

神山の松ふくはもきふりや又をうけて若う見に志む

賀茂 重政

新古今夏

つらぬるのりとも山此勢あるけりけり此勢はかき

小侍 從

同雜上

勢ふそれりとも山此勢あるけりけり此勢はかき

式子内 親王

新勅撰神祇

つらぬるそれ神山の山人と人もこの建れを後ろり

推延

同

神山此棟と松も茂りけり、いんをうかすの久そ久そ

賀茂 重政

同雜一

思ひ手やうの神山の姿あうけてもようそふはくん御とも

在原 八相

同

神山の目しけのろりともいんをうかすの久そ久そ

正三位 成実

後古今夏

しやのゆいりとも山乃其甚きふも勢をうけやそらん

家隆

同

神山小ゆいりてなりみ初推業明くれ志叶明こと

後鳥 羽院

後拾遺冬

神山此松も茂りそ思ふはゆりそをそふ乃ゆりみぬそや

賀茂 氏久

同雜春

ゆいりそ即月みまうり神山乃其の末迄も夏をさうり

深人 不知

同

神山小ひふゆいりあふひま明にめしても過よき六

俊成

同雜上

つらぬるの若とまくるたてとぬるの神山ふりりらり

西園寺 八幡 大政 宗

同神祇

思ひ手や神あそりけそ宿をまうそれりとも山の後明乃月

後鳥 羽院

新後撰夏

勢ふそれりあふそたちりりそれ神山よ今日のれりし

為家

同神祇

十子振うの神山の中よれ所る所は淀川の若れあやけさ

天台座 主道 玄

同雜上

神山にうのふりりよ二葉を三此位乃あそをみね

賀茂 氏久

同

やうとをての、林山の勢をさす、初音を今もきく、れ

王業恋四

これゆゑその、山は委まきふふりけし世ひかす也

同雜一

林山おの、ひのほしてきかれし月の桂乃、音そま、く、れ

續十載雜林

又新拾遺物名きくしひひ

林山みづ、く、代をひは、佛も、の久しく、あやゆひ、ひ、し、る、と

同神祇

た乃、み、や、千、年、を、あ、り、す、ま、さ、く、ふ、と、ん、わ、の、林、山、は、松、虫、乃、声

同

つ、く、ぬ、代、の、あ、ま、て、あ、や、ひ、千、年、振、う、の、林、山、の、松、虫、乃、声

續後拾遺夏

時、島、を、林、山、の、う、の、う、も、り、こ、り、と、結、し、し、人、を、り、り、ま、也

風雅雜上

を、れ、つ、つ、程、夕、う、け、て、林、山、乃、玉、々、々、れ、も、れ、の、あ、る、白、雲

同

お、の、ま、あ、ま、ゆ、あ、し、て、り、て、林、山、は、す、そ、の、ま、つ、つ、思、ま、ん

新十載夏

林、山、は、ま、り、れ、下、ま、ち、ま、は、く、ま、つ、日、り、さ、り、る、時、島、乃、れ

同神祇

ま、と、を、ま、さ、う、ふ、松、乃、敷、こ、ま、の、り、林、山、は、け、ろ、り、の、ゆ、く

新拾遺冬

林、山、は、松、乃、生、て、ま、玉、振、ハ、あ、代、を、ま、の、た、め、と、り、れ、り、ん

同神祇

水、島、れ、も、れ、林、山、乃、しく、り、て、松、の、ま、ま、も、あ、り、に、り、り

新後拾遺夏

ま、ま、の、り、り、の、林、山、乃、柳、ま、れ、く、を、い、ま、あ、を、り、ま、祿、あ、ん

同眞

大、ま、乃、ひ、ろ、こ、に、ま、ひ、く、林、山、は、ま、あ、の、り、ひ、や、日、取、成、ん

新後古今夏

林、山、の、雲、と、ひ、り、み、さ、ら、の、さ、う、つ、な、や、あ、代、乃、す

同冬

の、り、き、を、お、お、ま、り、り、町、島、を、れ、林、山、乃、ゆ、あ、り、け、て、な、く

同雜一

ゆ、の、ま、ま、を、り、り、み、り、へ、ま、林、山、乃、道、を、あ、り、口、埋、れ、り、ん

同雜一

林、山、乃、ま、ま、を、り、り、み、り、へ、ま、林、山、乃、道、を、あ、り、口、埋、れ、り、ん

鴨羽川

山城

愛宕郡

の、り、の、不、不、鴨、乃、羽、川、の、り、の、り、と、思、く、も、久、依、く、れ、瑞、籬、大、臣

行畧

林社

同

同

賢俊

不知

賀茂

又宗

枝三位

前大納言

二条院

鳥家

從三位

等持院

贈左大臣

賀茂

源頼貞

教三位

匡房

同

無名

親王

好基

從三位

前太政大臣

千載神祇

さうりいもとたのとうろろまたまき我片思乃神と思へも 賀茂 政平

新古今夏

呵馬かまうつがともうく思れ社れ素すたちやゆれ 崇式部

新勅撰秋下

片思乃社乃木葉と交付ぬりさ田のよーね今や 右北門 督為家 後二条 院権大 綱言典 侍

玉葉秋上

遙てたろー涼りのまーとく思乃盡れ捨乃秋のもつ風 為世

後拾遺

み秋一なるたてく思れ社れますまをい海うとくひり 賀茂 惟久

風雅神祇

か思れ志海の毒ちもとけく動るま世派程ゆるれ 賀茂 惟久

新古今冬

秋さつと邪もちるうん片思れまりの下田音のりる 賀茂 孝久

祇園

同

後二条院時祇園小の幸ゆもれ小東捨ふり 賀茂 孝久

後拾遺神祇

ちる振りのまをれけりん想こ松系代ぬくまけーめ也りの 松原 可徳

新十載神祇

振るふ子もくの揺るりのまうんてく人れ力と所の島南 松原の 可徳

遷谷

同

まゆりのまを乃おもれりてー想目れましきふ小やのうぬ 文屋 康秀

古今哀傷

笠取山

同

ぬつれいおもるうーと笠をれ山をうくのぬ葉うぬらん 在原 元方

古今秋下

同

雨ぬまは笠くう山のぬ葉くくけりし人乃袖ゆへうてる 忠峯

後撰別

ついでに笠を山にぬまてあけき路みそんそ 淡人 不知

同

笠をの山とたのケーまをまて涙のぬふれけくうゆ 宗行朝 臣女

金葉秋下

笠をの山に世派経ぬりーの運まをみやまると我れ 淡人 不知

風雅冬

うさ取の山とれけつひもやく町ぬ小神とや 大中臣 相基

古今撰

康背山

山城

相樂縣

部 びくちふんりのけり川川風きーなり後山

淡人不知

實後撰

海すくれのこ坂れ道も迄として言少りみゆる正う後山

權大納言公安

王業恋一

つころふれゆれ候れ泉川朽るんてをころるの後や海

源家長

芝置山

同

千載雜下物名

ふりーれつ常をゆるきの杜うせんてまきのそやとくろ

登進法師

紙屋川

同

葛野郡

古今物名

うもむの川の思髪やういれうし鏡乃のひふゆる白雲

貫之

龜山

滝峯

同

同

古今賀

龜乃木の山の志祿をとめてあれ流乃白玉あられぬおと

まのこまに

拾遺別

龜山ーのく薬のこあまれいーしひる方もるまがくれ

戒秀法師

龜山の仙洞よりー乃山の秘とあまこころーう

ゆーりたさげるとく

續古今春下

春みおやひやうりーんさ野の光も今日よう者お嘆らん

太上天皇

同秋下

龜乃木の多さの川は玉らりてあられうすんる杖扱れは

大納言通成

同新中

大升川を中もふらぬ山のうらぬけそつく代をゆるん

中務

龜山仙洞

川の者れ物のめくぬの嵐山あれおぼてれけるたまのせ

太上天皇

同賀

修まのせを齡又ーさ龜山乃さうハ風さらうさく里らう

伊勢大捕

續拾遺賀

秀代と龜乃た山の松うけをうつしてすあるやせれは氷

太上天皇

同

龜乃れ山乃うひのう山極秀代ふつふたのーあそみる

冷泉大臣

同

名いめてく方代ぬつき龜乃れ山此極をきふ嘆ふらる

権大納言

新後撰

飛江の岩根を流る白玉のりすうまを記す代乃坊末

後鳥羽院

同

つくふりくたともつさし船のたれ山の岩根の流の白

常盤井

同四

るの流の林れ春をのまを即め山乃杖うくれ

前奉議

同

あつ代成つふむを子のたれ乃岩根の松お海生れまて

從三位

凡雅賀

今も又船のたれ山の杖れ月くもつぬれを思ふあつと

入道前

新拾遺

子見する何くをのまを船のたれ山の岩根の松をたぬあつと

為家

新撰古今

大井川よりさやまの船のたれ山の杖れ月くもつぬれを思ふあつと

後成

神樂島

山城

受若郡

級一系院の流八濤おま提樹院お海つるゆあれお

りやうを思ふて子祝のたれゆれいよあつと

十載夏

あつとひれくひりあつとれをるまりお山れ部をくれ

律師

古今物名挂宮

挂

官里川

同 し訓部

杖れれと月乃うつれれやをりり芝をむとらうを汁を

藤平忠

同種下

うつううゆりけりれ

えつと乃中のひりり里がれ芝をのりうれむをらりり

伊勢

えくれお葉月りりり大井川をりり掛れお葉をみん

忠孝

拾遺秋

後右遺秋上

同雜四

金葉秋

新古今夏

後後葉冬

同雜二

後古今秋下

後後葉秋下

同雜

玉葉夏

同

同雜二

新千載夏

同秋下

同

新拾遺春上

同夏

同秋上

同雜上

桂のうらみのうらみ水色秋夜をうらめ

水乃面ふ花れゆひときふえてよ花れ秋花はゆきをみる

こきの日に桂の葉をくしぬいきよ月の輪にくづきふり

こころひの桂の葉乃月夜へて思ひ浦せ秋事のちたれ

久方の中月、川乃うつひ船のち葉りてやことまうら

もあゆむ桂れ甲れ川上り、葉りありてや月もまむら

桂川のさーの花乃秋めしきれよ花れ園うきふこひしき

久しこのうらめれ甲れあよむらこも月乃さようつるを

つきて秋芝をうらて照月れつづの里に秋の葉うぬく

るうめはつひの雲もまれつる桂乃あもみすあつ月乃

桂人は乃ひのうらさくぬ秋もの不元指船に葉をせり

あおれうめぬつるあ人もまさり桂乃里の秋れよの月

やのふもあつこいさう長はれ月乃桂の秋のこころひを

まもれあつ一の山のさして桂れ里よ月うくまらる

久しこの月のけともあつれ桂れ甲小あけり知乃花

久しこの天てる月乃桂川秋のこひれさうらひのれは

大井川さもさうられ花ももりつひのうら乃れ秋風

伊豫の桂の葉おらして桂れ枝も花はさやあ

梅の香ふ浦らひらりみさを振ておらう柳へあさり

又明この月の桂れをまれつひのうらをゆらせ乃うら

大井川下をうらつれ月乃けにみのさそあ秋せて乃白玉

月れら乃桂乃人せよあそあ涙れをひてゆららん

能宣

祭主

補親

定家

在原

実方

定家

入道前

太政大

臣

權中納

言俊忠

入道前

太政大

臣

權中納

言俊忠

入道前

太政大

臣

權中納

言俊忠

入道前

太政大

七条后

新後拾遺歌下

同雜春

久思の中にまてふ思れるとそふれをまゝもすまらぬれ
里れふれ月れ桂しやふさくぬるうらやさうふらん
不
知
人

春日

野神山原

大和

添上郡

古今春上

同

あはれをきふしを懐う若まら事もこまれば我を懐まら
ま日のともふ火れ燈守やとみよ今つくりのきてはみ子摘てん
同
不
知
人

同賀

あはれをままつとも白かの神ゆりももて人のりえ
ま日ゆよつりや掲げく美代といもよびを採うらうらえ
同
貴
之

同

岑高こま日のゆよりの日れくもる町なり燈をへらるる
あはれを雪戸を分て生体けり葉乃もつらみぬしきうも
同
臣
筆

同

春ととまけりうらふらう山海の人ぬ書れたしきゆりえ
霞を春日の影人れつりあも感えてうら人も摘やや
同
躬
恒

同

春日節ふせぬみなりとてうらむとけのふおひやれ
あはれを小窓をうらむ春日は当ふらけぬ冬とみよまふ
同
不
知
人

同

春日の苑火れ節守かてつれとをなまなまを罷もうらえ
あはれをうらむをまことのまをうらむの山ふらやまみ
同
山
辺
人

同

ま日野ふまのの年をまつつれとをむぬ物もつりふえ
二歌よりたのりこまふ日山本さる松の種をと思へや
同
能
宣

同

珠をきふの思ふ乃ハし女を罪もうらむと思へらめや
春日野乃露乃燈魚のされたみぬをなむ海をひらけ
同
中
官
侍

同

春のまをうらむの山よまむらむもあふ人れ
寫乃月さけり人小あはれをふれをなむとてみま
同
原
房

同

春日山をけりてまむらむを家をもふらむとて思へ
同
本
人

後拾遺春上

白雪のまじりゆく里乃の予野にツと打りしひ若み摘らん

能宣

同

同賀

まは野を雪のこつむとにのとも生ける物ハ若ま也らる

和泉式部

予ら山岩ゆの松こまのたあすもせはこもあ代うらん

能因法師

同春四

まは野をふかやちか振るうう燈火にみゆともしほ望みれ

入道撰政

同雜五

あか橋ま日の東ふ雪ふれしむつひとまふりくうやる

入道大政大臣

同春一

かとつこてお月け、せし雪やまぬま日のへのあふかり

大臣公任

同

三笠山ま日のあれお登りうりまらんけさとようまて

二条前太政大臣

金葉春

まは乃く子日れ松をひつてしを林さひゆえはにふれ也

少将少将少将

同秋

まは山岑よりわの川れ月けを飯所の川での氷さるるり

源師光

同雜上

春日山奈はくき燈月けのまらまね若の松とあはれり

源重之

詞花春

まは野の物なりこしけおまを言れ流さふあまはめり

源重之

千載春上

あまの山かのあはれと咲しよりりのゆへしとまをてまよさ

竹類

同雜中

まは野川をよるに橋うるそまふりへ神れまをまらる

後醍醐

新古今春上

まは山まらつ小松ととりくれれあのみ教りねた

左兵衛尉公行

あまの野れ下もしつこふ草の上みつれなくあかまはれ泡音

權中納言田信

同

あまの草を縁ふりりれりあねつまんと流りまあらん

壬生忠見

同

あま橋神とそとゆりま日野のとふ火の包り言れけり流

前茶錢物長

同

つれれをりれくそつしれつ乃ま日れあままらる海ぬ雪

九河内助臣

同

あまの草をよるま日野とこし春乃日ははれはるま

壬生忠見

同賀

春日山教の南よりうねりあかのあまらる春うりの人ら

攝政大臣

同春一

あまの野れあまらるま日野とこし春乃日ははれはるま

葉平

同雜下

春日山あま埋ま松ぬともあまらるつけこせと海のまら風

家隆

同神祇

百代を伴のりうりく流ゆふ多きまは山は春は露に

中内言 資仲

同

ま日乃く印とろのるり埋水まふ新れきうういを

後成

新勅撰春上

そりてまを車ゆうー物日ゆまうすうの山お隠たさひく

淡人 不知

同筑

枝りらひ春日乃魚れ鳩小松新るびもりとうー流らん

実方

同

かそられ新るーひらま日山思へとうねーゆを康の祥

前ま白

同神祇

りう山社の下道布と分てつくたひをまぬあーの声

後京授 撰政前 太政官

同

りうの山や海さうーし杖岩の上おそ康の祥をさこゆり

僧止 行意

同恋一

春日山おおるまれば舟つりふらぬ人おもさけうふりま

淡人 不知

同雜二

春日野まもともしやうぬる草の極みーりま新れ鳩りー

入道二 親王

同雜二

りうの山今一否とあさてるみしぬまてゆふおみこりか

前大納 言忠良

同

春日山つふらうりー岩ありまま氷のとりまてうーん

俊成

雪のゆり波をきこりすのたうすまれば舟まもたらうり

淡人 不知

同秋上

とくおもあそりけよ春日せうー流るる枝の杖露のけお

前大納 大臣

同雜上

とー毎よあまつこけくま日お輝るまきふやまを知らん

躬恒

鏡古今春上

春日野やまこお枝のま風ふちあそくる記れきの晩はく

順徳院

同

うくおまそゆりれ魚ここりこまも小松り上も隠たる月

人丸

同秋下

ゆりお小町る海みゆりひーりを隠るささるんるあれ山

式部口 直指

同神祇

我もゆり新遊羊尼佛せまそくあやひさ月の四夜照くを

春日大 明神

同

春日野おのまふ所宝れ梅は咲けくまてやうられまて

春行 味成手

同

それりまや新るささるん春日のく物あを中もあゆくれ

入道前 後大臣

同

りう山林乃ひきさうー流るも新るまうにめをれびるれ

入道前 後大臣 太政官

同

春日山も向れ志くの音山是て木のまの月小杖風そく

同 臣 太政官

同

つど野や玄年此三月の花はまお深しむを許うらら

順徳院

同

葵ののまやま日の山乃松うせりくま初まらわらぬ

後京極
摂政前
太政大臣

同律上

ま日乃松乃花枝の想いまも子じりりの人と川人も

俊成

續拾遺香上

ま五くそくみらるまをま日山奈乃物日此うさやり

同

同律春

すの山若のまうくま折ぬくも折るしぬれお花は

同

同

ま日山乃花うまのぬくひしけりうらぬ松は藤は

為成

同律秋

春日野より代にれぬくうて雪踏分れ道とさうま

左近中
将師長

同賀

暖くそ藤のうらんと春日山松ゆそまを伴うひりけ

常盤井
入道前
太政大臣
三位
行能

同神狹

ま日山若乃柳葉とれりけり代の芝る月うみしけ

後鳥羽院

新後撰春上

ふさぬと産うしつあま日山ま雪のぬ雪ふ雪のなく

後鳥羽院

同秋下

ふらの空空此鏡にれられやまをみけり山の山はるの月

前僧正
公卿

神も又あつためとやま日山ゆりさみけりきの泣流しうん

推注

同

こゆげとまぬりのとりま野川ゆとろふのうたの並を

前大臣
後一条
入道前
大臣
左

同

ふれりまこまとのうらぬふはまはむのれ想ひてを

大臣
左
大臣
左

同律上

まのやうすりのかへま思ふとて能ゆる者此時此花は

前大臣
大臣
左

同

ま日山本たりま春は藤の花末葉も春にのしゆりや

前大臣
上行

同

ままま折るはおぼやう春日野おれと流乃を雪流く

按察使
俊成

同賀

ふらり子日乃松お契をりん神小引まてあ代ふま

院傳製

同

ま日山並るまあま松うらまはるまのふのあは

右近大
将百平

玉葉春上

ま日野おまううらま子あうまはままも云人やる

常盤井
入道前
太政大臣
兼教

同秋上

あ分るまれ下ま流ま日ぬのくれ花の中れさうり

兼教

同

あ分るまれ下ま流ま日ぬのくれ花の中れさうり

冬原

同賀

春日の子日のねよひのれとて年をつむともあまなう南

同正二

春日のく雪の下草人を連すやふひのりやや我う待つ

玉葉雄二

あはれ浅草の上に思とらあうふきふとく思うれうやと

同

りすの野も子日あはれ春の辺部一は暖味を杖落れとん

同尺数

夜もさうら流と白れりの袖の候にややれ春日野乃日

同神武

おりのけし春日の葉も葉も春乃をよ梅とありあけり

同

春日山林れめくそをけりし中も越てさうふれわ乃藤

同

春日山ふれれは登れゆさよ月うけとふまの乃そ

幾千載春上

春日山奈れ物日乃春乃りろろし若れきつたやりのん

同

春日山あはれのふろりし高橋の満たうしわのさきれとん

同

春日山あはれのふろりし高橋の満たうしわのさきれとん

同

袖よりしそみられ初られ春日野れりの葉の落りれす

同

春日山奈の葉ふをきて思ひのりりしゆくよとら

同神武

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同尺数

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同神武

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

同中

春日山あはれけしし夏草のふけさあうむにわすれり

月院

女御

不知

後成

権僧正

普光

入道前

大臣

中臣

後母

院内

侍

前中

言定

家

後京

後政

前

太政

大臣

中臣

後

中臣

前中

言定

院

前大

臣

同賀

同下

同下

同秋上

同恋一

同難上

同

同神抵

同

同

瓜推春上

春の山はふとり後凡高きけしをり
支ゆの勢代のしを 為家

つすのの草葉をやくとみりくよ下もい
後凡春乃不蔵 大納言 公実

ふ日ぬりの紫花もつ草とろうぬりあり
しあまの夜なき 伊集

はとむてさくそうれのらむ日野を
我者道きしを麻礼分 前大僧 正良信

ふ日山の互雲は井ぬ日けく見うく乃
いしき志中もき 中納言 家持

ゆ末をたしそつれまうすの山咲き
る夜の花をさるしれ 権大僧 都公惟

ゆ末もたえそくとふ日山し
るけよきたのあらなき 為若

くそりなきむの芝もや春日野に
隠るゆもあけらん 上東 門院

春日ぬく春乃あくの埋れあつと
の林れけりひのめらん 為家

ゆすの山はくとまてつる包く
れ返りけの道をたす 中臣 祐春

ふ日のくるりけりけりけり
けりけりけりけり 俊成

こわくそむののくくく
くくくくくくく 人磨

ゆく秋の候あうひの春は
やまてられのらゆを康乃不 前大僧 止重延

けさの物あ馬のゆきつ
ふり山をふりし我むし 穂積 早子

ゆりゆれ社のま繁え
ありてまてぬれ流まるま日
ぬく京 院兵 兼督

ゆをゆれ我ゆきつ
おりけりやまてりりるれ
段の下草 前大僧 言実教

ふ日野は秋鳴麻も
まてまてまてまてまて
道に埋もけり 為相

ゆ末れるえふよけり
ふ日山けりお日れりけり
まてまて 深心院 美白前 大内局 中臣 林臣

ふすの山阿のり
とけりまてまてまて
まてまて 中臣 林臣

春の山はふとり後凡高き
けしをり支ゆの勢代
のしを 為家

ふ日ぬりの紫花もつ草と
ろうぬりありしあまの
夜なき 伊集

はとむてさくそうれのら
む日野を我者道きしを
麻礼分 前大僧 正良信

ふ日山の互雲は井ぬ日
けく見うく乃いしき志
中もき 中納言 家持

新十載 春上

ゆすの山はくとまてつる包く
れ返りけの道をたす 中臣 祐春

ゆく秋の候あうひの春は
やまてられのらゆを康乃不 前大僧 止重延

同

つらうと煙をまじり春日野小伴はしらのきふも若く橋下
不痴人

同

ぬかの光くもふして春日野に花解く乃長乃若く橋下
後山本
前左大
臣

同春下

春日の夜しらりゆりんとくし山持れ人乃折てのさしん
不痴人

同神祇

おつれ春日の魚のまよふ二丘ひ春小あふもさしん
躬恒

同

おつれ山つた所の暮や夜ふ此後うしゆりぐとを志すらん
為定

同

詠へも若くあふも分て春日野やわあう山代小伴まうらや
善持院
贈五人
臣

同

あふ藤片起外わのを流久きて春日乃野人小あもへまら
前左白

同

秋まうらうのわくくみ互あまてみし世意しき春日の魚
花園院
其末旨

同春遺香上

あつらうらふにゆりゆり春日山麓たなひまぢりれり
山辺
赤人

同

つすりの雲れ夜ふ山麓小しれあうらをまみりてうり
定家

同

春日野を春のたよりり白雲れまきまのりせあ不摘天
前大納言
言保世

同神祇

春日野よお井れくもの池となくくれまはする杖敷乃お
家隆

同

ふらふら松と我身とむおらり二葉うらうらあ人神り
中臣
弘通

同

こころをたたりぬるとおの山麓乃直とすえたのり
前大納言
言保世

同雜上

家れ風吹う流る人えうすの山末葉の夜れ枝るひをまて
八条入
道内大
臣

同

春日野やくりうぬ月れ花なれをとりれむの池もまら
前中納言
言保世

同中

流小石ひおきうれ春日野小川人もるまらりの下くさ
前大納言
言良冬

新後拾遺條上

春霞とくの夜よこりくをさしおのり乃を言しん高きり
伊勢

同

されり又雪海と分て春日のく葉のまうらふを摘つ
為氏

同

おつれ野の若あも今まらありの人あしこせを雪う落積
大中臣
能宣

同雜春

若くも花あふつたうやふらのまら小れ雪しゆくまゆ
三善
公連

同

春日山松うらうけけけけけ孫れ末うらうたそむら
民部
資宣

同仲被

新清古今春上

同

同賀

同難

同

同

同

同

同

同

春日山よりゆく袪れとてふ代にもさしし春れ松の

磯政太

春日山をよもよもよの降敷を立ち小もやまここ所れ也

清原深

三笠山花もつらよりのまじるまじる日の室のしれれめり人

菅父

春日山披ううひつ松のてくもるすくせれぬゆもるる

入道前
太政大
中納言
資備

春日野や阿波をとりのる小のこまかも我も年をつこつ

前大納
言中各

春日山本ふるまきまつ小みきそたり袪代の春をくくすらけ

前大僧
左大臣

春日山より成むるむらむらと互ふわんるわらぬ

正酒意

疾のけさうらうふらうや春日野のわの雲れ衣うつらひ

比佐豊

春日のさきふふふもももせしやまをまをたひ

法印
慶運

春日と伴ひて袪れと春日の向とろろてや袪れむ

權大納
言乃遠

春日山よりけりあふく云れ衣のる乃あふ袪れむ

權中納
言推録

葛城

山 橋 神 高峯 大和

古今大方所
考

志りとゆの葛城山は落雪けすし町なりてはもはゆれ

後撰秋下

玉つら葛城山の雲をくもぬ小のこまにわらふり

夏之

葛城のくめらの橋にあらう思ふいとけううよせ也

淡人
不知

葛城やくめら小つら志袪れやふてもえわわらう

同

中流てくれ人もなき葛城のくめらの橋を今そのやう

同

葛小や我やそくのれけし作も明かにもつとよう思へ

同

あー我れ葛城山小井れを乃互にもわくもまとも思へ

同

つらつらうらうらき物う葛城のくめらの橋の中へさし

同

春日山葛城山とわらわら我れけしけしと橋りり

同

志袪の衣乃染もさしぬ人しあふれ袪れさりのつらきの袪

春宮女
兼人左

同難賀

同四

同三

拾遺卷二

同

同五

同延三

後拾遺秋上

石川月うく里さき、葛城の林も霞くもちまらけし海し

惟宗 為坐

同延三

中たゆら葛城山此岩橋もふとみかる事もひこくそまきる

相模

金葉冬

衣の乃さしめうく小志りしゆら葛城山小岩をよりけく

俊頼

十載春上

葛城や高間乃山の橋花を并れふそりみくしやまきこん

光輔

同秋上

照月の丘の福の床や志りしゆら葛城山の若川乃さし

俊頼

同下

初時ぬゆる福をなくこくとゆら葛城山の夕陽まよたり

仁和寺 後入道 法親王

同律上

ふつたや後志とててぬえれゆ人小くの乃岩橋あまたり

師頼

新古今春上

白雲乃さしきふなひくも柳れりつらき山小春風うよと

雅經

同

葛城やさきの橋をれにりり互回乃わくふらうらうら

寂蓮 法師

同秋下

あすの川に葉をなけり葛城此山の林風吹そりわらうら

人丸

同

あまの川せてよほくこらあや葛城山此ふりりれり波

推中納言長方

同延一

うつりゆまふ嵐の吹するもちれのふま乃うらうらまの山

後人 不知

同五

うそふりきみてあきこさうら葛城やさきの山乃岩れ白雲

能宣

新古今春上

三冬はま春一東のれはち柳乃葛城山より霞れなひく

鎌倉右大臣

同下

葛城やさきの岩乃志とゆひして海りひし花のまう後ろふ

后原 隆祐

同冬

ふりしゆら葛城山此のなうらうられ高をみなくとれり

後京極 攝政前 太政大臣

同中

葛城や高間乃山の朝子春くさあもにちらうらきうら

前中納言 匡房

同下

橋花をり天さうらうらうらなふりつらうら乃山

后原 隆祐

同秋中

葛城や花吹りしを春風小とくしもみぬくめの志叶

西園寺 入道 大政大臣

同延二

うそにうらまふふらうら葛城や高間乃山の山此の山

後京極 攝政前 大政大臣

同春四

同雜上

同

同

同

同

同秋下

同

同

同春二

同

葛城八段もの梁乃岩けり此さして並ぬみくひなる

非さゆへ葛城山れさるれしお井れくものるく海そなき

「そみみる葛城山れさるれし肉より白へむやゆさうん

さう海にたつ時そりつさきの山のをしこまうら白雲

白雲をたよりよふららん極うらうさまつさきのや海

葛城やさきの山の花ゆらまのうそをけらむをみるれ

葛城やとよられされれれ月酒おならるまをれをよりみ連

秋のえよ町ぬぬ松もはらるるもふふの月けの葛城れ山

深てけりあより後も志りとゆふ葛城山れれれもみらそ

葛城やけこころ果ぬ岩橋と秋の突りそあまことようけ

葛城より秋に與をしくともかこふとさよくめの岩橋

まくれも極あたまをち柳乃つらうま山うけりさるる

まよりもよそふさると葛城のたうまの極あ〜吹り

よそをよそむにりゆと〜葛城や月小つくらぬ春の白雲

町ありま乃よそけらるるそと夕日おろひつ葛城れ心

風吹こぬのうさささしく小町あて〜つらきか山

ふら〜り〜や〜もあま〜埋まて處を〜らりつ〜きの山

山さ〜ら〜や吹ふらりまつ〜まや〜り〜けて白ふ春風

葛城れれらまの山れきけくさあさ井れまや極けららん

葛城やさ〜の極けりむまをゆか井れくも〜春風り吹

ら〜ら〜り〜や葛城山よ井れくもりまねに吹らりひとま

心渡五ふし〜日〜り葛城やままれ山やうそよふみと

中納言 賀季

権大納言 公更

後堀門 氏部

順徳院 家隆

有家

源具氏

西園寺 人前

太政大 氏

通七 氏

家隆

匡房

信実

中務口 宗親

王 後深井 院内

平善宗

前茶鏡 雅有

前中納言 為井

源原 降信

兼倉右 大臣

式子内 御下

若井 入道前

太井 奈

同春四

同雜上

同

同

同

同

同秋下

同

同

同春二

同

同

同秋

同秋

同下

同雜

同

同下

同

同

同春一

同

同

葛城八段もの梁乃岩けり此さして並ぬみくひなる

非さゆへ葛城山れさるれしお井れくものるく海そなき

「そみみる葛城山れさるれし肉より白へむやゆさうん

さう海にたつ時そりつさきの山のをしこまうら白雲

白雲をたよりよふららん極うらうさまつさきのや海

葛城やさきの山の花ゆらまのうそをけらむをみるれ

葛城やとよられされれれ月酒おならるまをれをよりみ連

秋のえよ町ぬぬ松もはらるるもふふの月けの葛城れ山

深てけりあより後も志りとゆふ葛城山れれれもみらそ

葛城やけこころ果ぬ岩橋と秋の突りそあまことようけ

葛城より秋に與をしくともかこふとさよくめの岩橋

まくれも極あたまをち柳乃つらうま山うけりさるる

まよりもよそふさると葛城のたうまの極あ〜吹り

よそをよそむにりゆと〜葛城や月小つくらぬ春の白雲

町ありま乃よそけらるるそと夕日おろひつ葛城れ心

風吹こぬのうさささしく小町あて〜つらきか山

ふら〜り〜や〜もあま〜埋まて處を〜らりつ〜きの山

山さ〜ら〜や吹ふらりまつ〜まや〜り〜けて白ふ春風

葛城れれらまの山れきけくさあさ井れまや極けららん

葛城やさ〜の極けりむまをゆか井れくも〜春風り吹

ら〜ら〜り〜や葛城山よ井れくもりまねに吹らりひとま

心渡五ふし〜日〜り葛城やままれ山やうそよふみと

中納言 賀季

権大納言 公更

後堀門 氏部

順徳院 家隆

有家

源具氏

西園寺 人前

太政大 氏

通七 氏

家隆

匡房

信実

中務口 宗親

王 後深井 院内

平善宗

前茶鏡 雅有

前中納言 為井

源原 降信

兼倉右 大臣

式子内 御下

若井 入道前

太井 奈

同

同春下

同

同冬

同春上

同難上

同

同

續後拾遺春上

同

同

しや子のつづき山の操花びよりけてみぬくたうま

葛ふもつりまは電玉こつてよぬゆのみしぬをりたえ

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

みるまふ志もよそりるまふかり葛城山のまぬれば

ありにける邊ともかしを葛城やを雪乃る雪の的初め

いほりてよそみ成りともみらくもれ又町ぬれ葛城の山

よまのし霞ぬもひく葛城たけのまの山を流やこりり

こくく花分をさくくし葛柳の葛城山よまうりくま

白くもれたてるやつ川こめつたのさるの山よぬ咲きたり

春ささくもふささくハ花やられりそ入りは葛城山

りつりまの葛城山ハハハハハハハハハハハハハハハハ

葛城の津うせひてわさすはくさくさくさくさくさ

葛柳のうさき山れりそまうさまはむはむはむはむ

さくさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

葛城たけはくねせあまの川あはれ流しきまさくまの橋

山はにまのゆきやさしむはむはむはむはむはむはむ

葛城たけはくねせあまの川あはれ流しきまさくまの橋

りつりまのゆきやさしむはむはむはむはむはむはむ

極亮ふさるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

わわひてうぬらん物り葛城の山れ橋はくも井るるる

山借入

道左入

邦有

家隆

八道二

性助

政大臣

保能

前大納

言為氏

夜笠前

大奴大

匡房

後成共

陣守

国道

贈従三

位為子

家隆

後西園

寺入道

前大借

同

同春下

同

同冬

同春上

同難上

同

同

續後拾遺春上

同

同

同秋下

同難下

同難下

同難下

新千載春上

同秋下

同

同

新拾遺春下

同下

同

しや子のつづき山の操花びよりけてみぬくたうま

葛ふもつりまは電玉こつてよぬゆのみしぬをりたえ

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

葛城やさる乃嵐少きゆりふらふあく花は白ゆき

みるまふ志もよそりるまふかり葛城山のまぬれば

ありにける邊ともかしを葛城やを雪乃る雪の的初め

いほりてよそみ成りともみらくもれ又町ぬれ葛城の山

よまのし霞ぬもひく葛城たけのまの山を流やこりり

こくく花分をさくくし葛柳の葛城山よまうりくま

白くもれたてるやつ川こめつたのさるの山よぬ咲きたり

春ささくもふささくハ花やられりそ入りは葛城山

りつりまの葛城山ハハハハハハハハハハハハハハハハ

葛城の津うせひてわさすはくさくさくさくさくさ

葛柳のうさき山れりそまうさまはむはむはむはむ

さくさくぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

葛城たけはくねせあまの川あはれ流しきまさくまの橋

山はにまのゆきやさしむはむはむはむはむはむはむ

葛城たけはくねせあまの川あはれ流しきまさくまの橋

りつりまのゆきやさしむはむはむはむはむはむはむ

極亮ふさるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

わわひてうぬらん物り葛城の山れ橋はくも井るるる

山借入

道左入

邦有

家隆

八道二

性助

政大臣

保能

前大納

言為氏

夜笠前

大奴大

匡房

後成共

陣守

国道

贈従三

位為子

家隆

後西園

寺入道

前大借

同夏

葛城やさるの山小井取くもれよそあもろくさ又立れ

後醍醐

同秋上

凡そやのれまとうきと杖のたのあをうふとま葛城乃山

匡房

同下

余如よく言や時あて傑つらんふ葉してうと葛よれ山

從二位長綱

同旅

そふりも余ふふゆれ葛城やあしとさまの孝乃白雲

法印公順

同延一

葛城やさるの山よあをさあのものもふのこやとんと思し

家隆

同四

ワの事や又米飯乃傍も中段てわくわくわふらん葛よれ山

実方

同

志りーのほりー中々葛城乃神りぬ勢も我もまろりぬ

源和義

同雜上

もつる葛城山ふりううてもそふれもらぬりさの白雲

前美白左大臣

新後治遺春下

へたけりもむし撫れまがれを光りともぬ葛城れくも

近衛三善

同

日ふうもそまううくれ葛城やさまれ花さくや威即也

一品法親王法

同

のつとやうけりうそめれまうくもまて白山橋のふ

左大臣

新御古今春上

葛城やねくもかして晴小なるもま乃りそりる杖乃月乃

源原

同春下

あすの川若ぬさし葛城れ山れあう雪いんやけゆりし

家隆

同

葛城れ花乃香とくれ春風う余ふりる雲も程白ふり

五宗宣

同夏

春も今を橋の町うとわくもより白ふりつらきのや海

俊成女

同秋上

志の井れ葛城山れみ月雨にふくた京も海りくと花乃

雅録

同旅

ぬりゆり下登りりられ鳥柳の葛城山り杖もふりり

後久我太政入

同延一

葛城やうそふと入し今乃をりりとも分れ杖れゆり

四頭法師

同

葛城やさるの山小井取くもれよそあもろくさ又立れ

為世

古今秋下

神南倫

川 撰別山 冊は 大和

林せ月ひあといまこゆりまよ魚てうつろふ林まひの社

淡人不知

同

ちやふ家林りひ山れ葉もれ雪ひをふり一後よりのを

同

同

後永原

祢るひ乃山と色の祢るれや新田川中をぬりしたむら
祢るしして喜らひすし祢る祢るひ山よりあま交てり
不短

同冬

祢るおのゝとせ小祢るむの杜乃木葉ハありふらうふれ
同

若貴冬

ふきりりしとせと祢るせひようやれ祢るひ乃杜
夏之

正葉春

ふゆり思祢るひ川ふけのみしてうろひまら山吹凡花
大貳
長実

詞花冬

ゆいけしし持も雪あれを白ゆあぞく祢るひ乃より
夏白
大政大
臣

新古今春下

蛭け祢るひ川より祢るみそて今やあくらん山ぬきの花
原見王

同夏

をれり妻のひけくなくやあおやま祢るひ山のや海子祝
不短

新勅撰冬

下あ祢るひ山のひりれもと暮ありあもてたとれ山人
好忠

同恋一

煙る祢るひ川お咲世のいもぬりろをも人のと人即し
二条院
譚波

同雜四

下あまのまうまうめてりり町ぬあけきる祢るひの杜
入道前
太政大

同

つくとせり鳴ぬ野して一祢る祢るひ山のひ月ぬのう
家隆
二位

同冬

長くあ祢るひ川のせとまは後よやくぬは白ゆあ
太宰
卿

同冬

冬凡そそしく行く時う祢るひの杜の本葉もやり結ま
光俊

獲古今秋下

今より町ぬもあもなうんうろひ神一祢るひ杜
入道前
太政大

同冬

祢るあめあれとぬりこや向うを南吹るを祢るひ乃杜
荒木田
卿

同賞

祢るむの山れうへりるを清水のひてう汲み代れたあ
不短

獲拾遺冬

冬凡そ祢るひ山の村町ぬもこもあたらぬ祢るひ
院并
内侍

新後撰秋下

通て祢るむつろふとく一祢るひの盡凡木葉に町ぬ海也
入道前
太政大
臣

同

下あ祢るひ山のひり町ぬあもぬあや深ぬ日をたり
為家

同神哉

ありまをもあれ白ゆあうけてらる祢るひ山れ暎のう
野宮左
大臣

正葉秋下

あらしそり祢るひ山れ葉くくされりも白の錦をう
權大佛
言家

徳十載秋下

徳後拾遺冬

同冬

新拾遺秋下

同冬

同冬

古今抄下

拾遺春

同冬

後拾遺春上

徳後拾遺中

徳後拾遺上

新後拾遺春上

新十載秋上

新十載夏傷

拾遺雜恋

後拾遺雜二

同

三宮山本よりやまにこれの心は神なる川より月を照やゆき

通てより後ろひ初に葉のりれども急は神なる此社

申ふはそひ越つてひ跡を神なる山より分るなくけり

神なる山に心は乃きあぐれなりひ雲は四方に雲を

通てよりよりあはれは心は程町あてまふ神なる心より

神生ひの社に、神なる心はよりよりよりよりよりより

行景

山野

大和

馬下郡

山城有同名

登立てるうりくならぬ心は乃の心は心は心は心は心は

りひのらもあつまん心は心は心は心は心は心は心は

しれてるや心は心は心は心は心は心は心は心は心は

のうよあしめてや心は心は心は心は心は心は心は心は

春の海初しより心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

拍子社

同

人し心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

拍子社乃下を考て心は心は心は心は心は心は心は心は

心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は心は

廣壁門
院少侍

法印

仲実

後二

僧正

後徳大
寺前内
大臣

人唐

不知

聖徳
太子

長原

基後

前内大

出家良

公

津守

光明

寺人

前機政

左大臣

從三位

為繼

基任

權中納
言基隆

右近

大納言

道綱

馬内侍

新古今恋一

新古今冬

同恋二

同

新古今恋四

後撰冬

玉葉春下

玉葉恋二

町島らのあつ田と拍木れよりてもす志れましけりうれ
馬内侍

としりて町島しをまつれりて雲よある拍木の社
土師

本拍木社下葉のひぬも身を洗おふ所をとりするん
監金婦

うもれ社下葉のひのせよしる世ひをむしとそ世
僧正
遍照

のーこまのとりてをるよ互のうたもしし煙れ始也せん
華院
多田
大臣

祇牆山
大和

ちも夕の祇のま山れ柳も町島より夕もつるうりたる
後入
不知

神皇山
同

みわさぞと白ゆふりて吹よぐり神皇山のまつ穠のふ
宗王
親王

輕
他市
同
馬市郡

町の池のへ江めりもる鴨すくま玉とれ上に細祿すよ
比呈女

み汁をうぶれ市人泣きあきとうれ年もるまるとたてつ
為若

蜻蛉小野
同

知れを流ふこめしてけろふのとねま下にもあとも
為家

後十載雜上
けろふのそのままれ枯しよりまりなきうとて人り也
土師
門院

新拾遺長
ましう父日小やよりけろれとののさうふゆうゆ一
八道二
み親王
曾譽

秋小野
同

つゑもこの秋のをれくやあおまひたふれぬ人やりの境
前大納
言実各

一月かよりのとれ小州草のつりの戸もりやとられ
源兼政

金湯寮
同

金吾山小海いそそおろりつとて付てゆもれ
中界

千載尺敷
あらのんりの隈をまわすくみやこうとてうせは乃折
五原
野家

交野 里原

河内 交野郡

後撰卷五 交野、元くこのとてう扱もゆとを思ふに心なりけり

玉葉名 内大臣 家肥後 為世

詞花冬 交野の交野ふかを成りたふらうとわらうと

詞花冬 交野の交野ふかを成りたふらうとわらうと

新古今卷二 電うの交野れんはくも衣ぬまぬ言うと人へおれを

又やみん交野乃このくもくつるを花の言られ春れ明りの

同以下 新なりく交野よたてる抱ぬ糸なぬ計りしあふの後そぬく

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同 所指すも交野の此小降雷あるり下るこき鳥もうそたて

同冬

朽くくそくく野の雪に中よゆらさるる山乃る月

忠房 親王

同春四

新古今又のふ事も交野りらの月乃河原のまき波を

華院前 美白内

新古今遺秋上

立にまらる人このの光清ひたとぞよまぐまのくはらん

新少将 上西門

同雜上

踏雪の鳥車あしきふゆくのの野のうのさうとます心

源氏類 院兵部

新後拾遺冬

きふもよしこのまのふと香のゆきとみしを指くく去つ

宅葉院 贈左大臣

同

みのりまらうくく野に雪の又きふる此川月をくかくり

前兼詩 雙名

同

みのりまらう交のそれに日ききぬまれ指と澄ふくくま

俊成

同雜春

明く野りらるた山の磯寄春り終てと伊ひし波小咲うん

法印 定四

同

るりさぬそ河原やうららうのくせ小春の新はらんきこ

厚守 国助

新後古今冬

みのりまらうくくこの波と今もせうまらりく野れ書の澄る

崇徳院

同

言ふこりたのきしをゆきとせくく野れあしぬ日し

雅中納言 言号重

同

ゆき雪のこらふ上毛にむらりてゆきお忍よ電ゆらるる

前兼詩 忠定

同雜上

ゆきせりぬらりぬりらとまらりて交は島れあし浪島ん

今上 御製

同

きふと又そのは波とく物せうくく乃まらりくく

兼詩 家茂

後拾遺雜四

亀井

揚津

新古今尺数

み代とすまらる亀井の氷と流ひ上てしれらりきとくまらるる

弁乳母 上東門院

新後雜尺数

瑞小とそ所流れあし流してまらるる字まふあ人れ亀井へ

都芳門 院安藝

古今別

山崎より新古今尺数社をくくふへてまらるる

源三孫

古今別

祇園俗社

同

古今別

色りくくくく別をまらるるよよめ

源三孫

古今別

人やそのあはるるは大方をいさうくと伊ひてしとあ

源三孫

歌勅撰後

言伝定白めまはれゆえにまの道りく道りて惜杖
き辭しよるあれり

林の木のたれりこいふ言そのまらぬ林の向う角に

惟大納言兵家

河崎

指津

千歳延四

まよばるとの思ひを川海にみれしものさうなく

從二位季行

後撰撰後

逢へてそひりし川を川海に水の流れく終しそ思ふ

美平

後撰拾遺延三

淡しそを契しゆ川を水の流れく終しそ思ふ

西音

新撰古今延二

鳥乳ふよあその契を川に西ふる川に流れく終しそ思ふ

權大管荀亮著

林道山

伊路

度會郡

野の山を流りて建て後撰撰後撰の国二思の浦に山

る小橋けり小太神の山とそ林路山とそ大日

め其の所意迄をとりひてよ見ゆけり

千歳神抵

ゆりくへて林の奥と初まは又うへとるよ香乃松り渡

山位

新古今神抵

るう光るや林の山のよ香乃松り渡

太上天皇

同

林の山の木のたれりこいふ言そのまらぬ林の向う角に

西行法師

新撰撰後

筑前川八十瀬白波分てえて林の山の春を思ししり

後京極攝政

同雅二

つたつひり林の山の云葉れむなりく朽ん絶う想し

荒木田成長

後撰撰後

林の山の木のたれりこいふ言そのまらぬ林の向う角に

前太政大臣

同

林の山の木のたれりこいふ言そのまらぬ林の向う角に

荒木田

同

筑前川よりさけえん林の山よりまを分ていけり月うけ

僧正行意

後古今神抵

よりて天トあもりしやあ林の山の林をくゆ

躬恒

同

小車の錦を向れ林の山又めくりあもりしやあ

太上天皇

新後葉神祇

神道山ひくらら繩此一編みけのひ奥さあの世のこころ

後人不知

同

新千載神祇

あふと初まは海りの神る山ゆりのさうらひにさも賢

同

川雅神祇

神ら山流れ小きももしより末承をりれぬ春のま

荒木田氏

同

うら道山由外乃まの文極をを極ぬにもすまとまたて

後伏見院

同賀

うてまひあふまて教びうら山流さあをつうてう徳

荒木田房継

新千載神祇

神ら山百枝れ松もゆふ又うくあ代志小葉をとくら

土門院小率

同

これ京ああ一志下乃神流山ひ流ま雲ぬふうてま

二山法親王

同

我れむ神路れ山をせうらりあをせひかれへあ月の教

荒木田大忠

同

うく杖成とくまびのをそ神路山月もそてる芝けらら

荒木田大忠

同

神ら山内外れま乃ゆふのうらうく代をそま海りの

贈三子位

水上一いゆりさけらの山うせみもすそ川れ流れそ

荒木田守

同

ちやあ神らの山の節日教程ありの代おれまのうす

常盤井人

新後遺世下

あのみすらの鏡代こけて神るれ山うてうす月うけ

前中納言実任

同神祇

くまりの記あうらあ代と照すし神らの山よける月

蓮智院

新後拾遺賀

あのためあたてー内外乃文極さす神らの山そうこ

後九条前大

新後石今賀

我れむ神るる山の松れゆく代り春ささせりりし

後鳥羽院

同神祇

神道山春の松くも年少うてま久ぬまをけりきま

後照念院

鏡宮

伊勢

鏡拾遺神祇

神代しりまをこけて物終のうらまのまおすあれ月う

前大僧正隆弁

河口園

同

新後筆抄下

くまりけり月れそそ川のまのうらまをまうら

後院

新千載卷三

川のれまれりう境うらるれも我れまひをゆらう

後院

新獲古今三

川の乃其のりて遠きなりし海に衣るるももむるなりぬ
前巻詩 雅有

甲斐根 甲斐

古今大方所引 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

同 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

後拾遺冬 河方とりひの白根をちりし祿を雪少の毎小智ひようやれ
比伊 式部

後後撰拾 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

新十載拾 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

新拾遺冬 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

鎌倉甲斐 相摸

鎌倉甲斐 相摸
鎌倉甲斐 相摸

霞送 武蔵

霞送 武蔵
武蔵

新拾遺春上 別りてまは霞のせも守もやうれ月日をとくもやさす
從二位 官子

新拾遺春下 別りてまは霞のせも守もやうれ月日をとくもやさす
從二位 官子

葛飾 下総

葛飾 下総
葛飾郡

新勅撰雜四 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

同 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

風推夏 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

同 甲斐根成りやゆもにりるるにふこりるよせれりやの中山
比伊 式部

勝間田池 同

八雲抄并能兼の五代集巻下 勝間田云く仍當國最之備并抄美作 其彼國有勝間田郡其所以可史之

千載雜下

新拾遺二教

鳥とつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり
化とつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり
りつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

蘇原
能求
二条大
皇太后
宮肥後
彩女
以師

香取浦

同

香取郡 江川有同名

後千載步

夏衣のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

定家

新續古今雜一

袖とつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

資推

震浦

常陸

新後撰卷一

春衣のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

定家

同

白飯のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

順徳院

後千載卷一

夏衣のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

僧正
行意

新後拾遺卷上

白飯のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

土居
院

新續古今雜一

春衣のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

今上
傳

同雜二

春衣のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

教三
位

鹿嶋

神

常陸

鹿嶋郡 記列同名有之

拾遺卷五

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

後人
不知

新後撰冬

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

為成

新續古今別

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

唐崎

近江

滋賀郡

世也

後代

古今物名

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

同

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

伊勢

拾遺神祭

鹿嶋のつとせせむらひのつたたの化まの井の邊たをり

平林峯

同雜秋

何しし小杖唐崎小まのりてぬまらるるを

惠慶法師

詞花春

奥山うたてししし漕舟もも今も繁きよき

大徳口 匡房

同神祇

水井しし志りの唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

しつとなく雲の高はる境の志とややと志りし

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

同雜上

あはれやとりのしし唐崎うらけてささるるまはる吹

法橋 性慈

新拾遺神祇

新代よりわろくぬ松もくくぬことゆ事久しき志の代唐城 法印 延全

新後拾遺尺数

崎やゆい波もくく心丹と新代小のぬを松樹くぬく 法眼 玄全

新境古今秋上

崎や松れこみと竹のひまは照月なと小浦り渡り吹 推延

同雜上

み波心林とくを色山後下りきふりら崎小ぬう涼し 祝ア 元仲

鏡山

道江

野洲郡山城を前有同名

古今雜上

鏡山りささよりわて見てゆん年をわらみをむや一ゆらと 大伴 黒王

同大分川内云

道江のや鏡山と成てされを過てうとゆらあの子を 同

後撰秋下

鏡山や海り雲とく此連と雲ありのくを秋しかし 素性 信解

同

打りまてりささも子り鏡山あして雲れちと伝みん 夏之

同卷山

鏡山のちてさつれハ秋暮のけさやとらんを江てあふ 坂上 日守

拾遺春

鏡山えとうけくく先よ鏡山春く後のれやとゆらと 坂上 是則

同

みのささくはもちくく鏡山雲と月さ世よ逢りたの志 能宣

同

新代とあえらあもみん鏡山千とせれ程をらりもくゆ 中務

後拾遺春

鏡山こゆらあもも春雨のうまくそりやあゆらあ 惠慶 法師

金葉春

鏡山極ろあをとそりよりあ新小のくぬ口う 大貳 長実

同秋

鏡山奈よりあゆら月けくも秋夜もあまうけと 撰政五 大臣

千載春下

鏡山芝や花のよせえんらりつとてうらひ 新茶諺 親隆

新古今言

くさりけ鏡山片月とみてあまらけさ世後を 三内口 末能

新勅撰言

大流と照まうく 同

同雜四

大嶽の流次ゆ 同

後撰言

新もみよく 祝部 成茂

同

雲るま 前中納言 匡房

後古今春下

後拾遺中

新後撰後

同神祇

後千載冬

同雜上

同

同賀

凡推第

同

新拾遺冬

八し又雪と少りゆくく山か一も懸れこれけりれ

正三位 知家

老くく乃鏡の山此傳を伴くくほきのつちやうふら

五よま月しそあかりく山せ一部の板書のあけ

徳大寺 左大臣 實能公 前茶誥 雅有

くちりなき津れり室ふけえて向くくまの山れく月

法眼 兼兼

二つより町あてくりれくまのあくも鏡乃山乃く月

前大僧 正安超

鏡山にて木相くく雪けりくかりまくくまはく年くれ

二品法 親王寛

二代まてえりくあふれ鏡山じくもらりくみりく

助 前六油 言性任

扱えれすとせのくけと鏡山豊のめりくみるのたけく

不人 不知

空くくま内代く遊江乃鏡山くりるくとき人くみる

如願 法師

志やあふり八咫れ鏡乃山くくまきめりく世を

止三位 隆教

又か馬をむらりの初冬よりく縁を鏡乃山乃けにけり

為五

後拾遺秋下

同

新後古今秋上

同冬

同委四

同雜中

云のま不秋くくまみく鏡山志くふびりくけをく

為世

鏡山くもらぬは乃月されま芝をみのくあつ乃く

安嘉門 高倉

山れ名とわきてものく月け乃かてる海も鏡へり

前美白 此形

くりりくるまりもますく鏡山ふみ取てみゆり板書のれ

山階入 道前左 大臣

雪ふれく通てくゆり鏡山ちりくふ鏡のまれ取もり

贈従三 位為子

鏡山くくへりらと成るりりく中み相くふと

源經次

五より又くくつれ鏡山つれら老乃くをく

前大僧 正隆弁

浦生野

遊江

浦生部

拾遺賀

後拾遺物名

浦生乃く玉丸を山くくまひ鶴乃く年くく代れ取也

後人 不知

さハくまて冬終せりくまふ野小殿乃くくも生けり

好忠

餉山

同

金葉本下

と江戸そとをこゑ成りれりひ山志を越るると人と縁なく

漢人 不知

續拾遺卷三

堅田

浦沖

同

滋賀郡

此井小又受ふやうん蓬車を扱もつこの圃の浦れあつた

高階 宗成

續後拾遺卷二

ひ川うひもあえ蓬車を扱この圃の浦れあつた

祝ア 成賢

新十載春上

春れくはつこの圃の浦れあつた

山光院 人前

新拾遺卷二

あふ車をこの圃の浦れあつた

政太 臣

新撰古今卷二

あつた波もよみ人も三を成りたり蓬車を扱この圃の圃乃蓬乃拾丹

前大僧 正直玄

陰野

原

同

高嶋郡

つみくんの成宿りせし鳥のり比はく原小日暮るひ

漢人 不知

同

くれも又扱やまつりし鳥人乃のり野れはくれ蓬れ下家

前内 大臣

續後撰後

さ鳥乃のちの原もややと人もきふやきゆりんを乃白雲

家隆

續古今抄下

吹り後もあうきりり新吟陰野乃とれく秋乃ゆみくれ

漢人 不知

玉葉本

海流り陰野れ鳥ハ雪乃上と分れ別あれ袖乃さむひりさ

藤二位 隆博

新十載原

の乃乃波ふもな鳥人乃陰の鳥よさけれ夏くさ

山階入 道左大

新十載夏

いづくありとけりこさん鳥乃のりあふりも又これぞ

鳥直 朝臣

鳥籠

送江

ぬ冷泉院山町大雲舎山屏風送江則鳥籠也

樹多生

あは小の世れりこほくもあつた鳥乃墨りつたの縁り

式部太 補資

多治遺哲

風越峯

信濃

ささり乃峯乃上りてみりつた鳥乃墨りつたの縁り

藤原 家経

詞花種下

風こしとゆり超りも鳥籠のくまらうとふなるつ

藤原 清輔

十載夏

續後撰冬

新拾遺雜上

白妙此雪少きなるをゆこし此まうりいけ冬の夜の月
因こし此雪れゆきも深くれてふ昔此所坂と埋む白雪
為原

可保夜泊

上野

平流れのやの沼の社春とこめても咲くけり
修理大
夫弘季

加鴻

陸奥

つらくともこれすまなり鴻なるのふ隊川此逢せまや
源順

帰山

越前

くさ山のりくきけとふ霞たち別をいさく海をし
きの
後定

海山何うもあつそきりひききくも苗らぬふふそき
新垣

白帯の八重海志きる海山ゆきくもわいりりりり
在原
神泉

我をほこしゆりりれこくふゆりり山をまじきゆりり
後人
不知

泣もくききききききききききききききききききき
右近大
将実房

越りゆき今ふこしりに海山雪あつ時乃ふふそきき
頼政

きりるよ海山海に返して日ぬきききききききききき
後教

まきとりひておぐ一杖もこの海山らの名うしききき
西住
法師

互れりし世中の越りの海山つゆき人ふあまききき
伊勢

はのめてもこれあつてふ海山ゆききききききききき
賀茂
重政

くもすれも跡終ぬ人きききき山こしりのききききき
後人
不知

互ゆきあ霞たたく海山ゆきききききききききき
八道二
性助

めふ事ききききききききききききききききききき
性助
性助

春霞りききききききききききききききききききき
花山院
前内大

きふふききききききききききききききききききき
観意
法師

三葉春

玉葉恋一

古今別

同

同律

後撰別

同

同別

同

新古今別

同冬二

後撰別

後撰別

同律

玉葉春上

同律一

後拾遺歌上

坂山のついでに松を切りひのしを井の底も今やうみみん 家隆

同別

新千載別

ゆるりゆるり山らの君見ても花の節も思ひつてまゝ 康資
王母

同籍中

お馬やうさまゐるう坂山をてう世との夜をありゆく 俣人
不知

新後拾遺冬

ついでにふより接する君ははるの山ちみる運小は 仲実

新編古今春下

雪も降るまをの川さふ坂山あまのまりてわけて 後二条
入道前
大政大
臣女

同恋二

そなたとあはれこしらめりひもびく邊とやふとて坂山 前中納言
雅非

狩道池

加賀

漢堀ま富田

新勅撰正二

まつ人指の泥小煙とこれまてもつともとまうらふ 俣人
不知

神南備山

丹波

和列有同名

長元九年後朱雀院の時大嘗会を基方此祇祭のま

千載神祇

丹波國祇乃山とよの

崇盛りん祇乃ひやまの御祭とてうゆる系代乃たあ 藤原
兼忠

永元九年大嘗会此を基方新し見てもりまの町

祇乃丹波國祇南備山とよの

同

是より申す方よそこの祇乃ひれ山の御祭とてうゆる 權中納言
兼光

榎山

同

保元元年大嘗会の宣基方丹波國榎乃山

新勅撰賀

久保元月此榎乃山人とよのありの里にうみりり 匡房

但月の榎乃山小家井とてくもななきとああるう杖の 贈兼光
兼忠

神田郷

同

多紀郡

和名

国郡如城

千載賀

ちよの神田郷に里に榎乃月日ともみ久しめりて

所中納言
匡房

漢古今雜中

梶鳴

丹後

岐の夜小みしけくろち鳴れ若みすぬりくもてうとふ

式部

懸凌

同

藻瑠山當田云々

新漢古今雜上

鳥をさすれ掃致ハにれ少て伴つてふりの凌るる

國道

辛荷鳴

幡磨

藤塩ま 當田云

漢後撰夏

三山端れしうの鳴よ玉も川あまもみぬみぬの比

雅注

賀心

鳴

同

八雲山抄漢塩草等當田云

拾遺雜二

のみの鳴松原歌小鳴ふののあなりくそす人月小

淡人

續古今雜中

のあの鳴松原こふ忍後さしむぬ乃月みさう鳴り

後鳥

玉葉雜二

あささすうたのう鳴りりこ鳴れ松原まか塩や満り

從二位

新漢古今雜上

うねりあの凌り夕小松原こして子鳥なくる

厚守

唐琴泊

備前

古今物名

波のる乃りさう殊よすれを春のちるをやり玉取原

在倍

同雜上

約まそのひくををれりてをいぬりてをけてぬうひき

貞せい

神鳴

備中

小田郡 比列有別名

建久の平大嘗會を基方所屏此小備中國神鳴

多神初取を

漢拾遺雜

神鳴の及凡日ゆ入りけ下くも受ふ所代乃たぬくそみる

前中納言

神鳴一

紀伊

玉葉冬

冬れ夜を端曲さび見神鳴の残るの浦にちりりなる

津守

新漢古今 卷二

うさ中よりそりりし神鳴や残るの浦に及れしゆ

七川

神蔵山

同

牟婁郡

鎌古今神祇

三途路代祓念乃るく見の不_レてく日狂_レる_レれ

入道前
太政大臣

秋見浦

風きと波乃又_レりを妹_レの鴻秋見_レ浦より子_レりな_レくる_レて

鎌倉右
大臣

同按

波揺_レ夜_レ中_レや_レし_レす妹_レの鴻_レた_レと_レ明_レこと_レ此_レ浦_レと_レり_レお_レら_レん

正三位
和家

同按

と_レり_レ舟_レ沖_レを_レま_レく_レり_レ妹_レの鴻_レし_レ此_レ浦_レお_レた_レの_レる_レみ_レを

入道
不知

鎌古今神中

ま_レの_レま_レ別_レし_レ妹_レの鴻_レ明_レこと_レの_レう_レり_レ月_レう_レ浦_レれ_レる

太上天皇

玉葉雜一

これ_レる_レり_レ明_レこと_レ此_レ浦_レの_レ友_レ十_レ島_レ迄_レと_レし_レれ_レぬ_レ時_レ乃_レ海_レり_レ也

正五位
太政大臣

鎌古今神中

あ_レふ_レ事_レも_レ今_レの_レ明_レこと_レ此_レ浦_レ及_レり_レま_レさ_レる_レり_レあ_レま_レの_レ釣_レ舟

正三位
源朝臣

同按

お_レも_レり_レの_レう_レ程_レ捕_レま_レさ_レる_レ妹_レの鴻_レり_レこ_レの_レう_レり_レけ_レま_レの_レれ_レ月

入道
正五位

新後拾遺冬

友_レ十_レ島_レに_レと_レり_レた_レこと_レの_レ浦_レつ_レら_レひ_レ迄_レけ_レれ_レ波_レよ_レ鳴_レて_レり_レん

正五位
信実

同按

神_レの_レま_レ人_レも_レや_レあ_レら_レと_レ康_レ温_レま_レつ_レた_レみ_レの_レ浦_レより_レま_レさ_レる_レれ

信実

妹_レの_レ鴻_レし_レこ_レの_レ浦_レれ_レり_レよ_レ子_レ島_レぬ_レれ_レる_レを_レま_レさ_レる_レり_レん

入道
不知

竈門

山神

筑前

伊都郡

元_レ捕_レ蛇_レの_レへ_レり_レう_レま_レさ_レる_レ明_レの_レま_レし_レ山_レれ_レ兼_レの_レ宮_レに

て_レゆ_レも_レれ_レお_レる_レを_レら_レふ_レゆ_レる_レま_レふ_レゆ_レる_レ書_レ付_レゆ_レゆ_レの_レり

ま_レを_レも_レし_レ故_レを_レあ_レり_レけ_レく_レ竈_レ門_レ山_レと_レり_レま_レれ_レふ_レ又_レ書_レ付_レゆ_レり

隠_レも_レさ_レる_レも_レあ_レり_レを_レみ_レる

筑_レ前_レと_レり_レて_レ明_レお_レゆ_レけ_レる_レお_レ目_レれ_レり_レこ_レく_レて_レり_レれ_レい_レぬ

凡_レれ_レト_レ竈_レの_レり_レの_レ祓_レの_レ後_レと_レ書_レ付_レゆ_レる_レ人_レと_レり

ぬ_レれ_レと_レり_レる_レま_レは_レれ_レみ_レし_レ乃_レう_レま_レ水_レ後_レも_レと_レふ_レへ_レま_レり_レれ

入道
不知

香推

宮神居渡

同

千_レの_レ香_レ推_レ乃_レ宮_レの_レ扱_レハ_レと_レ二_レ凡_レひ_レり_レの_レま_レり_レの_レま_レり_レき_レる

神を
武忠

金葉雜一

新編古今神下誹諧

拾遺雜賀

新古今神祇

千の指し一井乃まればや松を祓乃の後おたてするやたり

不為人

新勅撰抄

つゝもこらま推れりさふ白少の袖少くぬまそ辨あつと天

大納言
菅人

類古今冬

仲津はき吹り一十井浮塩むのらりり敷まにけりる也

為家

同菴

舟出する仲津は汐さひ白少乃一井乃つとるぬさくみ也

家持

新勅撰雜中

云々るさあの一ののほさあなりてとり一はみぬさくみ也

藤大納言
三延信

新編古今雜上

さか嶋乃正とんより十井浮浦なまきくらり子とん丸

源持賢

金砂碇

筑前

きしりのその海の浜碇れ字抄夏海もはみ舟敷るたれぬ

正三位
兼重

刈萱園

同

刈萱乃えすよのこみしゆんそ人もゆりさぬるる也りり

管昭太
敷大臣

新古今雜下

鏡祓

肥前

鏡のふくしと祓のふくしを祓浦の鏡の祓や祓ふふくしと

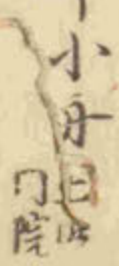
笠造嶋

豊後

大分郡

古今大
新後撰秋上

あそつ山打きくまの笠の島の嶋りたてり棚の一小舟

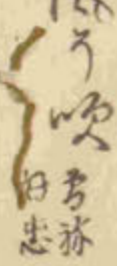


狩野庭

未勘

新勅撰秋上

篠麻れつと少れをきふみまハ外山果たけはぬり吹



懸嶋

同

千載雜下

卯花よりてこしくし懸嶋れ波とあまを岩と懸あつ後

加佐く芽山

同

玉葉又教

花衣のさくき山よりりりて繁の洞れ月とるり先よ

粉川に觀音の赤意法師より言給りり奇

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

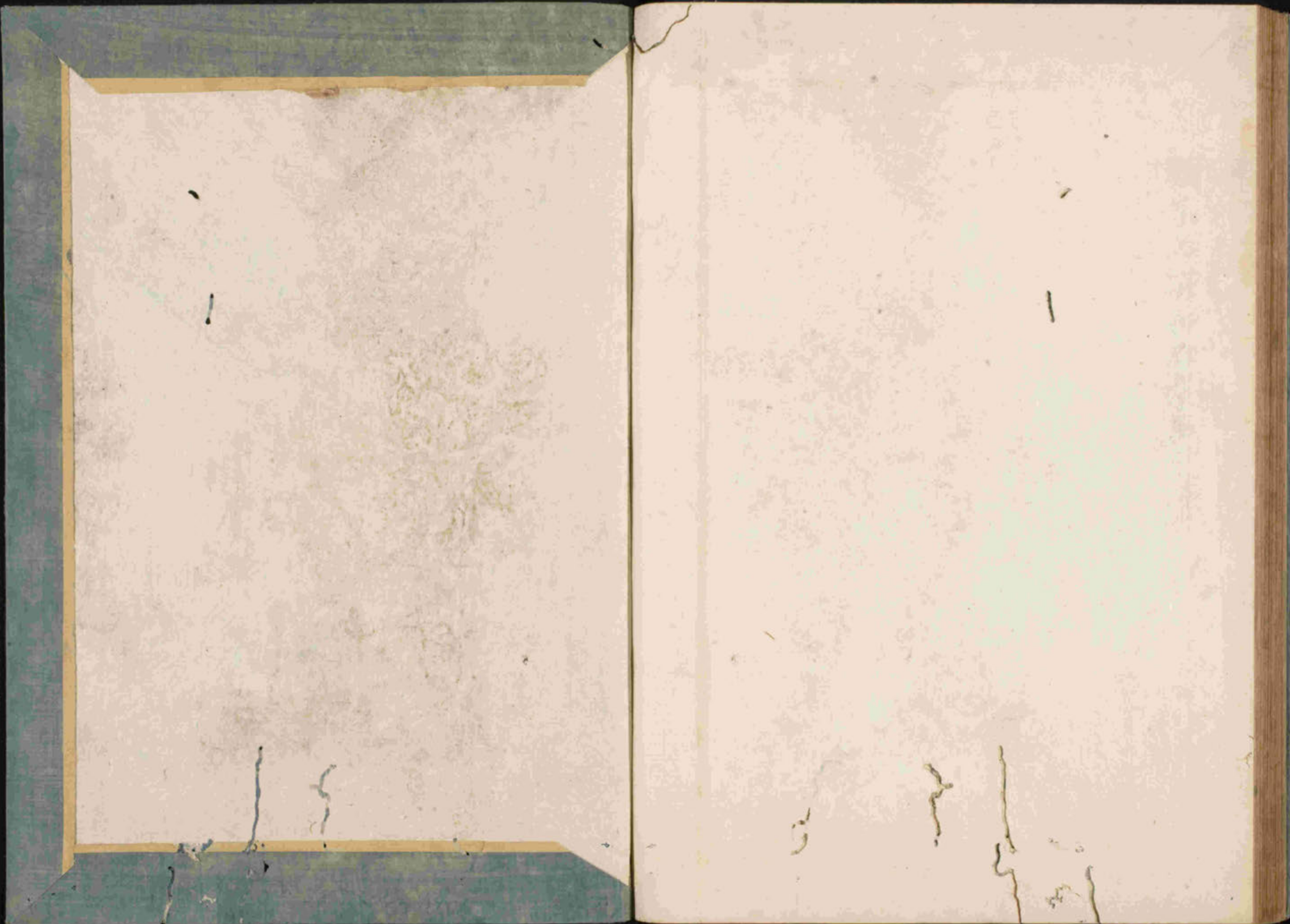
類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二

類字名所和歌集第二



110X
421
7